

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
医学部	医学科	夜・通信	-	-	28	28	19		
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	夜・通信	-	-	19	19	13		
医療看護学部	看護学科	夜・通信	-	-	13	13	13		
保健看護学部	看護学科	夜・通信	-	-	13	13	13		
国際教養学部	国際教養学科	夜・通信	-	-	15	15	13		
保健医療学部	理学療法学科	夜・通信	-	4	9	13	13		
	診療放射線学科	夜・通信			9	13	13		
医療科学部	臨床検査学科	夜・通信		9	6	15	13		
	臨床工学科	夜・通信			9	18	13		
健康データサイエンス学部	健康データサイエンス学科	夜・通信		-	-	14	14	13	
薬学部	薬学科	夜・通信		-	-	27	27	19	
(備考) 1. 医療科学部臨床検査学科及び臨床工学科は令和4年4月開設。 2. 健康データサイエンス学部は令和5年4月開設。 3. 薬学部は令和6年4月開設。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	元厚生事務次官	令和6年4月1日 ～令和10年3月31日	法人運営全般への 提案・チェック機能
非常勤	株式会社代表取締役	令和6年4月1日 ～令和10年3月31日	法人運営全般への 提案・チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p> <p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 教育要項(シラバス)に各授業科目の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を掲載している。 各学部の実施に係る取扱いは次の通りである。</p> <p><1> 医学部 履修要項、授業計画書(シラバス)の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月中旬～2月上旬頃：カリキュラム委員会において、次年度のカリキュラム大枠が承認された後、科目担当講座・教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。事務局で履修要項の原案作成を開始。 ・1月上旬頃～3月上旬頃：作成 ・3月下旬頃まで：内容チェック ・3月末：新年度オリエンテーション実施日に公表。 <p>記載内容は、履修要項(各ポリシー、コンピテンシー、カリキュラム表、進級判定基準、他)、シラバス(学習内容・概要、学習目標(一般目標・到達目標)、自己学習(準備学習)、学習上の注意点、課題に関するフィードバック、成績評価方法・基準、担当教員等)としている。</p> <p><2> スポーツ健康科学部 学部内の全教員に対してスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配信して、統一の基準で作成をしている。</p> <p>① 作成過程及び作成時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12月中旬 科目担当教員にシラバス作成依頼 ・1月上旬 科目担当教員からシラバスが提出 ・1月中旬 カリキュラム委員会、教務委員会、FD・SD委員会によるシラバスチェック <p>(～2月上旬)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2月中旬 シラバスチェックのフィードバック及び修正 <p>(～2月下旬)</p> <p>② 公表時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月下旬 シラバス公表 <p><3> 医療看護学部 毎年度、シラバス作成要領を科目担当者に配布し更新を行っており、更に教員同士のピアレビューを行い点検と改善を図っている。例年、12月～3月に作成を行い、新学期開始に合わせて3月下旬にHPで公表している。</p> <p>記載内容は、当該科目のディプロマポリシー及びコンピテンシーとの関連、授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準、準備学習(予習・復習等)の具体</p>

的な内容、課題（試験やレポート等）に対する学生へのフィードバック、担当教員（実務経験の有無を含む）等としている。

<4> 保健看護学部

カリキュラム委員会による「シラバス記載要項」に基づき、科目責任者がシラバスを作成し、講師以上の専任教員がピアレビューを行い、内容を点検している。

学内ポータルサイトへ掲載すると共に、保健看護学部ホームページにも掲載して公表している。

<5> 国際教養学部

授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。

- ・ 11月中旬～12月上旬頃

後期授業開始後（10月）、一定期間を経過した後に科目担当教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。

- ・ 1月上旬頃

作成〆切

- ・ 3月下旬頃まで

作成された内容のチェック

- ・ 4月以降

新学期開始と同時に公表

記載内容は、授業の方法、内容、到達（達成）目標、成績評価方法、予習復習等の授業外の学修内容、オフィスアワー、授業回数、担当教員、ディプロマポリシーとの関連、カリキュラム体系との関連（ナンバリング）等としている。なお、実務経験のある教員等による授業科目の場合は、その旨を記載している。

<6> 保健医療学部

開講しているすべての科目についてシラバスを作成し、カリキュラム委員会を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。作成されたシラバスについては、WEB上で公表をしている

<7> 医療科学部

授業担当教員に対してシラバス作成のスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配布し、両学科統一の基準で作成している。履修要項に、カリキュラムマップ及びツリー、コンピテンシー達成レベルを掲載し可視化を図っている。

<8> 健康データサイエンス学部

授業担当教員に対してシラバス作成のスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配布し、学部科統一の基準で作成している。また、カリキュラム委員会を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。

<9> 薬学部

学生の履修指導に効果が上がるように毎年度シラバスを作成し、効果的に活用する。教務委員会が中心となりシラバスの記載内容を点検する。授業担当教員は教務委員会の意見や学生による授業評価を参照にしながら毎年シラバス記載内容を吟味し、改善点を策定した上で作成する。シラバスには授業科目の概要、ディプロマ・ポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載する。

授業計画書の公表方法

<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

<1> 医学部

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている成績評価基準により単位を授与している。当該基準は、履修要項の共通事項において学生に周知するとともに電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価、定期試験、実習評価、レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定し、授業計画書（シラバス）に明記のうえ学生に周知している。

なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

<2> スポーツ健康科学部

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「履修要項」において、成績及び単位授与・認定について公表し、厳格に運用をしている。

<3> 医療看護学部

成績評価と単位認定は、教育要項（シラバス）及び履修要項に定めた成績評価方法（試験、レポート、課題、実技、日々の学習状況等）及び基準に基づき評価の上、判定会議及び教授会において厳格かつ適正に判定している。

<4> 保健看護学部

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「履修要項」において、授業、試験、成績及び単位認定について公表し、厳格に運用をしている。

<5> 国際教養学部

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている成績評価基準により単位授与・履修認定を実施している。当該基準は、履修要項として新学期ガイダンスにおいて学生に配布するとともに学生専用ホームページ上においても電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価・定期試験・レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定、シラバスに明記のうえ学生に周知している。なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

合否	評価	点数換算等	GP	評価基準
合格	S	90～100	4.0	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。
	A	80～89	3.0	到達目標を十分に達成している。
	B	70～79	2.0	到達目標を相応に達成している。
	C	60～69	1.0	到達目標の最低限は満たしている。
不合格	D	59以下	0.0	到達目標の最低限の水準を満たしていない。
	E	受験資格無	0.0	2/3以上の出席要件を満たさず受験資格がないことを示したもの

合格	P	合格	—	到達目標を達成している。
不合格	F	不合格	—	到達目標を達成していない。
合格	T	認定	—	単位認定審査に基づき、合格であることを示したものの
保留	I	保留	—	現在、講義継続中または採点中であることを示したものの
中止	W	履修中止	—	履修中止処理を行ったことを示したものの

<6> 保健医療学部

授業科目の学習成果の評価については、各科目の特性を考慮の上、科目担当者が試験やレポートを課し評価している。評価方法及び評価基準については、講義開始前にシラバスにて学生に開示し、記載内容に則り厳正かつ適正に評価を実施している。ペーパー試験やレポートで評価することが難しい定性的能力については、ルーブリックを活用し、評価基準を学生に明示した上で厳正に評価している。

<7> 医療科学部

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「履修要項」において、成績評価と単位認定について公表し、厳格かつ適正に判定している。

<8> 健康データサイエンス学部

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「履修要項」において、成績評価と単位認定について公表し、厳格かつ適正に判定している。

<9> 薬学部

科目担当教員は、シラバスに記載された成績評価基準に基づき厳格な成績評価を行う。
各授業科目の成績評価は「S」から「D」までの5段階評価とし、「S」～「C」（再試験により合格した場合は「C」）の成績評価を得た者は合格とし、その授業科目の単位を修得する。「D」は不合格とする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

〈1〉 医学部

GPA 制度を導入しており、以下の設定としている。ホームページ上でも公表している。

【GPA算出計算式】

$$GPA = \frac{\begin{array}{c} \text{Sの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 4 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Aの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 3 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Bの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 2 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Cの修得} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 1 \end{array} + \begin{array}{c} \text{Dの} \\ \text{単位(科目)数} \\ \times 0 \end{array}}{\text{履修単位(科目)数}}$$

成績の分布状況の把握は、各授業科目終了後に算出される評価（授業内評価、定期試験、実習評価、レポート課題等から算出）を、教務委員会や教授会を通じて把握している。把握するために委員会等に開示している学生情報は主に以下の通りとしている。

- ・ 席次・平均点・標準偏差・GP・履修科目の評価点・取得単位

〈2〉 スポーツ健康科学部

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及びGPAについて公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。(100～90点)
A	3	到達目標を十分に達成している。(89～80点)
B	2	到達目標を相応に達成している。(79～70点)
C	1	到達目標の最低限は満たしている。(69～60点)
D	0	到達目標の最低限の基準を満たしていない。(59～0点)
F	0	受験資格なし(出席不足)
W	対象外	履修中止
/	対象外	保留(実技・実習科目において課題未取得もの)
N	対象外	認定

- ・ 「S」「A」「B」「C」を合格とし、所定の単位を付与。
- ・ 「D」「F」は不合格。不合格科目については、当該年度の成績通知書にのみ記載され、成績証明書には記載されない。
- ・ 履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。当該年度の成績通知書にのみ記載され、成績証明書には記載されない。
- ・ 成績を段階評価することになじまない科目及び編入学、転入学などにより、本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」（認定）で表示する。

②GPA

- ・ GPAは4.0～0.0という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることになる。
- ・ GPA算出式

$$GPA = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値(履修した授業科目の単位数} \times \text{GP)の合計}}{\text{総履修単位数(卒業所要単位にカウントできない科目を除く)}}$$

- ・ 目的

取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。

・GPA の利用

GPA の点数により翌年度の履修登録可能単位数に影響を及ぼし、基準以下の学生には退学勧告を行う場合がある。また学内の順位づけにも利用する。国内だけでなく、国外の大学でも導入され、海外留学時に選考資料の一部になることもある。

・注意

履修登録した科目は、所定期間内に履修中止手続きをしない限り GPA の対象となる。安易な履修放棄は GPA の低下につながる。(成績評価「F」も分母に含まれる。)

〈3〉 医療看護学部

GPA 評価を導入しており、評価は、S(4.0) A(3.0) B(2.0) C(1.0) D(0.0)としている。評価の算出方法は次の通りである。

取得ポイント = (授業科目単位数) × (その科目の Grade Point)。GPA = (取得ポイントの合計) ÷ (履修した授業科目の単位数の合計)。

GPA は進級判定、卒業判定、退学勧告の基準として活用しているほか、助産師国家試験受験資格取得科目の履修者選抜試験や海外研修の参加条件等における総合判定データのひとつとして利用しており、算出方法は前述の通りである。また、これらは履修要項に明示しており、HP で公表している。

評価	判定	基準点数
S	合格 (単位修得認定)	90 点以上
A		89 ~ 80 点
B		79 ~ 70 点
C		69 ~ 60 点
C		再試験合格 (60 点)
D	不合格 (単位修得不可)	59 ~ 0 点

評価	判定	備考
E	途中棄権	履修登録したにもかかわらず、履修を取消した場合 ※成績通知書には記載しますが、成績証明書には記載しません
N	単位認定	本学部以外で取得した単位を認定した場合

〈4〉 保健看護学部

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

・成績の評価

通年授業科目についても各期に試験を行い、平素の学習状況、授業時間内に行われるテスト、レポート提出等を総合的に評価して成績評価を行う。

成績評価の表示は、次の基準により行うものとする。

令和 4 年度以降入学生		令和 3 年度以前入学生	
90 点以上 100 点まで	S		
80 点以上 90 点未満	A	80 点以上 100 点まで	A
70 点以上 80 点未満	B	70 点以上 80 点未満	B
60 点以上 70 点未満	C	60 点以上 70 点未満	C
60 点未満 (不合格)	D	60 点未満 (不合格)	E

・ GPA (Grade Point Average)

各学年における成績評価を客観化するために、グレード・ポイント・アベレージ（以下、GPA）制度を利用するものとする。GPAは、学生に対する学習指導、奨学生の推薦、海外研修参加、進級及び卒業認定にあたっての参考資料に利用するものとする。GPA 2.5点以下（2021年度以前入学者）、2.0点以下（2022年度入学生以後）の場合は、進級判定・卒業判定において審議対象となる。GPA 1.0点以下の場合は、退学勧告を行う。（本人・保護者との面談を実施し、退学するか学修を継続するかは本人が選択する）

GPA = [修得ポイントの合計 ÷ 履修した授業科目の単位数の合計] で示し（小数点第3以下切捨て）、修得ポイント = [授業科目単位数 × その科目の Grade Point] とする。

Grade Point は成績評価に基づき次のように対応する。

令和4年度以降入学生	S	A	B	C	D
	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
令和3年度以前入学生	A	B	C	D	E
	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

- (ア) ① = 履修した授業科目の単位数 × 履修した授業科目の成績評価の Grade Point
 (イ) 当該学年の①の合計 = ②
 (ウ) 当該学年に履修した授業科目の単位数の合計 = ③
 (エ) GPA = ② ÷ ③ (小数点第3以下切り捨て)

<5> 国際教養学部

GPA 制度を導入しており、以下の設定としている。ホームページ上でも公表している。

成績の分布状況の把握は半期毎に教務委員会や教授会を通じて把握している。把握するために開示している学生情報は主に以下の通りとしている。

- ・ 席次・取得科目数・欠点科目数・平均点・GPA・取得単位数（合計）
- ・ 履修科目の評価点（100点満点）等

その他、付随情報として科目毎の最高点、最低点、平均点、標準偏差 等も共有されている。なお、学生は常時自身の GPA の数値が確認できるように教学システム (Juntendo-Passport) 上で公開している。

<6> 保健医療学部

成績評価において、修得した成績に対する GP を定め GPA 制度を導入している。GPA の算出方法についてはシラバスに明記し、学生及び教員に周知している。取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。履修登録した科目は、所定期間内に履修中止手続きをしない限り GPA の対象となり、安易な履修放棄は GPA の低下につながる。（履修中止科目は除外する）

- ・ GPA 算出式

具体的な計算方法

具体的な計算方法

$$\frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む。）}}$$

* GPAの算出対象についてはP.44「◆成績について」のページも併せて参照してください。

$$\frac{4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不合格（D）」の単位数を含む。履修中止科目は除外する。）}}$$

* 卒業要件とならない科目は、GPAの算出から除外する。

<7> 医療科学部

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である（90～100点）
A	3	到達目標を十分に達成している（80～89点）
B	2	到達目標を相応に達成している（70～79点）
C	1	到達目標の最低限は満たしている（60～69点）
D	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない（59点以下）
F	0	受験資格なし（出席不足）
W	対象外	履修中止
N	対象外	認定

- ・「S」「A」「B」「C」を合格とし、所定の単位を付与。
- ・「D」「F」は不合格。
- ・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。
- ・本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」で表示する。

②GPA

- ・GPA は 4.0～0.0 という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることとなる。
- ・GPA 算出式は以下の通り。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値（履修した授業科目の単位数} \times \text{GP）の合計}}{\text{総履修単位数（卒業所要単位にカウントできない科目を除く）}}$$

- ・取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
- ・GPA の点数は、進級判定・卒業判定の判断指標にもなり、GPA2.0 未満の学生はクラスアドバイザーとの面談、GPA1.5 未満の学生は留年、GPA1.0 未満の学生は退学となる場合がある。また研究室配属やゼミ選抜の際の資料として利用される場合もある。
- ・履修登録した科目は、所定期間内に履修中止申請を行わない限り GPA の対象となる。

<8> 健康データサイエンス学部

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である（90～100点）

A	3	到達目標を十分に達成している（80～89点）
B	2	到達目標を相応に達成している（70～79点）
C	1	到達目標の最低限は満たしている（60～69点）
D	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない（59点以下）
F	0	受験資格なし（出席不足）
W	対象外	履修中止
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である（90～100点）

- ・「S」「A」「B」「C」を合格とし、所定の単位を付与。
- ・「D」「F」は不合格。
- ・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。
- ・本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」で表示する。

②GPA

- ・GPAは4.0～0.0という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることとなる。
- ・GPA算出式は以下の通り。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値（履修した授業科目の単位数} \times \text{GP）の合計}}{\text{総履修単位数（卒業所要単位にカウントできない科目を除く）}}$$

- ・取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
- ・GPAの点数により、様々な学内選考（進級や卒業判定等）の指標の1つとして利用される他、基準以下（1.0以下）の学生には留年または退学勧告を行う場合がある。
- ・履修登録した科目は、所定期間内に履修中止申請を行わない限りGPAの対象となる。

<9> 薬学部

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及びGPAについて公表し、厳格に運用をしている。

<GPA (Grade Point Average) 評価>

Grade Pointは成績評価に基づき次のように対応する。

指標	合格				再試験合格	不合格
評価	S	A	B	C	C	D
素点	100-90	89-80	79-70	69-60	60	59-0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	1.0	0.0

修得ポイントは〔授業科目単位数×その科目のGrade Point〕とし、GPAは〔修得ポイントの合計÷履修した授業科目の単位数の合計〕で示す（小数点第三位以下切り捨て）。GPA得点は、試行的に学修指導、履修指導、教育方法の改善に利用する。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

<1> 医学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては履修要項の共通事項上に記載のうえ、新学期オリエンテーションにおいて配布している。

<2> スポーツ健康科学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定め、ホームページや全学生に配布している「履修要項」にも明記している。スポーツ健康科学部に4年以上在学し、学則第98条の規定により124単位以上を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。なお、卒業に必要な単位として算入される科目と、資格課程等の取得を目的として修得する科目など卒業に必要な単位として算入されない科目がある。

<3> 医療看護学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を定め、履修要項や学生募集要項等に掲載し、ホームページ上で公表している。また、ディプロマポリシーを達成するために必要な能力として10分類、48項目のコンピテンシーを設定しており、各科目とコンピテンシーの対応表と併せて履修要項に掲載している。卒業判定においては、ディプロマポリシー及び学生の修得単位数等を踏まえ、適正に判定を行っている。

<4> 保健看護学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を定め、ホームページや全学生に配布している「履修要項」にも明記している。

保健看護学部に4年以上在学し、学則第128条の規程により124単位以上（旧課程では130単位以上）を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を行う。

<5> 国際教養学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては履修要項に記載のうえ、新学期ガイダンスにおいて配布するとともに学生専用ホームページ上において電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

<6> 保健医療学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページに掲載し公表している。ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）及び修得単位数等に基づき卒業判定会議にて適切に判定を行い、教授会の審議を経て卒業資格の認定を行っている。

<7> 医療科学部

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。

医療科学部に4年以上在学し、学則第144条の規程により129単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を

<p>卒業とする。</p> <p><8> 健康データサイエンス学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。 健康データサイエンス学部に4年以上在学し、学則第154条の規程により127単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。</p> <p><9> 薬学部 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上でも公表している。また、全学生に配布している「履修要項」において、ディプロマ・ポリシーとともに教育課程の概要や卒業要件について公表し、厳格に運用をする。 薬学部に6年以上在学し、合計193単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	順天堂大学
設置者名	学校法人順天堂

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/
財産目録	https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/
事業報告書	https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/
監事による監査報告(書)	https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:令和7年度事業計画 対象年度:令和7年度)
公表方法: https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/
中長期計画(名称:事業に関する中期的な計画 対象年度:令和7~11年度)
公表方法: https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 医学部は、人類の健康・福祉に寄与できる専門的な知識、技術を身につけ、「科学者」の視点をもちつつ、感性豊かな教養人としての医師・医学者を養成することを目的とする。そのために、以下の目標を定める。</p> <p>(1) 科学的根拠に基づいた医学・医療を行うための体系的な知識と確実な技術・技能が身に付いている。</p> <p>(2) 常に進歩する医学・医療を生涯にわたってアクティブに自学自習する不断前進の態度・習慣が身に付いている。</p> <p>(3) 常に相手の立場に立って物事を考え、高い倫理観を持ち、人間として、医師・医学者として他を思いやり、慈しむ心(学是「仁」)が涵養されている。</p> <p>(4) チーム医療・研究を円滑に遂行できる能力と習慣が身に付いている。</p> <p>(5) グローバル化する国際社会における諸問題に多面的な視点から対処し、解決できる能力と未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養が身に付いている。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 医学部では、順天堂大学医学部の使命の下で策定された各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士(医学)の学位を授与します。</p> <p>I. 診療技能・患者ケア、医学的知識 科学的根拠に基づいた医療・医学研究を行うための基礎、臨床の医学的知識を有し、体系的に理解し説明できる。それを応用し、基本的な診察・手技を適切に実践できる。</p> <p>II. 医療安全 医療安全の重要性を理解し、適切に実践できる。感染予防対策の適切な方法・プロセス、問題を起こしやすい状況とその対応を理解し実践できる。</p> <p>III. チーム医療、コミュニケーション チーム医療や患者の抱える問題を理解し、医療チームの一員として適切に多職種と連携することができる。 他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。</p> <p>IV. 医療の社会性 行動科学、社会医学、地域医療のシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、患者・国民のニーズを認識し、必要な医療と医療制度を概説できる。</p> <p>V. 倫理とプロフェッショナリズム 医の倫理・生命倫理、患者の権利・立場と心理を理解し、高い倫理観・適正な態度を身につけている。倫理・法律に反しない行動ができ、医療人・研究者としての責任感をもって行動できる。</p> <p>VI. 自立的学習能力、順天堂大学医学部で学んだ者としての誇りと責任 順天堂大学で学んだ者として、生涯にわたってアクティブに自分の目標に向けた学習をする不断前進の態度・習慣を身につけ、医の歴史や健康に与える運動の影響を理解し、他を思いやり慈しむ心(学是「仁」)を持った行動ができる。 グローバル化する国際社会において医学・医療の分野で国際的に活躍できる語学力、医療能力、未来を切り開く人間性溢れる豊かな教養を有している。</p>

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>順天堂大学医学部の使命の下で、卒前卒後の継ぎ目のない教育を目指し、順天堂大学医学部のコンピテンシーを身に付け、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を修得するため、以下のとおり教育課程を編成・実施します。また、学修成果を適切に評価し、教育方法の改善を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常に相手の立場に立って物事を考え、人間として、医療人として他を思いやり、慈しむ心、即ち学是「仁」の心を涵養するため、1年生全員を学生寮に約1年間入寮させ、集団の中での個の確立と、学是「仁」の涵養を寮生として実践実習します。 2. 科学的根拠に基づいた医学・医療・研究を行うための体系的な知識、確実な技術・技能、適正な態度を身に付けるため、1年次には自然科学と英語を中心とした基礎教育及び医療入門を提供します。また、特定の課題を少人数による議論と思考で進めるPBL(Problem Based Learning)を行い、全学生のモチベーション及び課題探求力・分析的評価能力を向上させる場を提供します。1年次後半以降の専門科目においては、生命科学、基礎医学、臨床医学を関連づけ、体系的に学び、医学への探求心を養うため、臓器別・病態別の水平的・垂直的統合型カリキュラムを採用します。 3. 3年次には、科学的思考能力を高め、医学における研究の重要性を理解し、生涯にわたってアクティブに自学自習する態度・習慣を涵養する小グループ制の基礎ゼミナールを設定します。将来、研究者を目指す者に対しては、研究医を養成するコースを設けます。 4. 入学後の早い時期から病院見学、看護実習、施設実習、医療体験実習、診察技法実習、基本手技実習、救急医学実習等の体験実習を行います。医療職の一員として医療の現場に参画することにより、保健医療制度を理解し、多様な職種の専門家との連携や共同作業を行えるコミュニケーション能力の涵養を目指します。特に、4年次後半からの本格的な臨床実習では、それぞれ特徴的な機能を持つ医学部附属6病院で患者を受け持ち、実際に医療チームに加わることで、臨床能力を身に付ける教育を行います。 5. 教養教育を重視するとともに、国際社会で活躍できる能力を養うため、実践英語を高学年まで課します。5、6年次の臨床実習では、海外での実習機会(2~8週間、留学先は自ら選べる)を提供し、国際的視野を獲得する場を提供します。 <p>学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンシーの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって、包括的に評価します。各科目のコンピテンシー達成レベルはシラバス等に明示します。</p> <p>学生によるコンピテンシーに基づくカリキュラム評価結果を活用し、カリキュラムの自己点検・評価を行います。内部質保証の維持、向上のため、第三者の視点を踏まえ、カリキュラムの自己点検・評価を定期的に行い、教育方法の改善につなげていきます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>求める学生像</p> <p>医学部では、医学・医療の知識・技能のみならず豊かな感性と教養を持ち、国際社会や地域社会に貢献し、未来を拓く人間性溢れる医師・医学者を養成するため、次のような学生を求めます</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一人の人間として、人間と自然を愛し、相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観を有する人 2. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を備えた基本的なコミュニケーション能力を有する人 3. 自ら課題を発掘し、知的好奇心を持って、課題解決に取り組む主体性を有する人 4. 国際的な視点から医学・医療の進歩に貢献しようとする熱意を有する人 5. 入学後も、自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲を有する人 <p>大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等</p> <p>医学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。</p>

1. 理科：物理、化学、生物についての十分な知識と科学的な思考力・探究心
2. 数学：数学 I、数学 II、数学 III、数学 A、数学 B についての十分な知識と論理的思考力
3. 英語：国際社会で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力、十分な読解力、表現力、思考力、会話能力、言語や文化についての理解、TOEFL-iBT 68 点程度／IELTS 6.0 程度、もしくは同等水準の英語能力
4. 国語：十分な文章読解力、文章構成力、論理的表現力
5. 地理歴史・公民：世界史 B、日本史 B、地理 B、現代社会、倫理、政治・経済についての基礎的な知識
6. 特別活動及び課外活動等を通じた主体性、協調性、思いやり、奉仕の心

入学者選抜の基本方針

医学部では、医師・医学者になろうと努力する学生に対し、6年間で卒業し、ストレートで医師国家試験に合格させるよう教育しますが、単に医師国家試験合格だけを目指すのではなく、国家試験をものともしない、知性と教養と感性溢れる医師・医学者を養成するため、入学者選抜方法として、学力試験のみならず、受験生の感性や医師・医学者となるべき人物・識見・教養を見極めるために、小論文試験・面接試験を課し、また、小中高に至る活動を知る資料の提出により、総合的な判定に基づき、入学者を選抜します。

学部等名 スポーツ健康科学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) スポーツ健康科学部では、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成することを目的とする。そのために、以下の目標を定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ健康科学に関連した幅広い知識を基礎とした教養を身につける。 2. スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観を身につける。 3. グローバル社会において連携や協働を促進するためのコミュニケーション能力とリーダーシップを身につける。 4. 社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力を身につける。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) スポーツ健康科学部では、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成します。スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科では、次に定める資質及び能力を身に付けた者に対し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ健康科学に関連した幅広い知識を基礎とした教養 2. スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすための高い倫理観 3. グローバル社会において連携や協働を促進するためのコミュニケーション能力とリーダーシップ 4. 社会や環境の変化に対応し、自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野における専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) スポーツ健康科学部では、「学是である「仁」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点及びスポーツ健康科学分野における専門性並びに高い倫理観を備え、多様な価値をもつスポーツを通じて社会の発展に貢献できる人材を育成する」ことを教育研究上の目的とします。教育目的を達成するための本学部カリキュラム・ポリシーは次に示す通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ及び健康に関する諸科学の幅広い知識を基礎とした教養を身に付けるため、人文、社会及び自然に関する諸学並びにスポーツと健康に関する多面的な学問分野のそれぞれについて授業科目を配置するとともに、他学部開講の一部科目を履修可能とし、多角的な視点を身に付けることができる自由度の高い教育課程を編成します。（本学部ディプロマ・ポリシー「1.」に対応する） 2. スポーツ又は健康に関わる分野で指導的な役割を果たすために求められる倫理観を身に付けるため、倫理教育を行う授業科目を配置する他、演習、実習及び実技活動並びに1年生全員が入寮する学生寮での生活を通じて、集団の中での個の確立と学是「仁」の精神の涵養を促します。（本学部ディプロマ・ポリシー「2.」に対応する） 3. 連携や協働を促進するためのリーダーシップ又はコミュニケーション能力を身に付けるため、リーダーシップ又はコーチングに関するテーマを扱う授業科目を配置する他、演習、実習及び実技科目を中心に集団での課題解決学習を取り入れます。また、国際社会において活躍するために必要な外国語運用能力を高める授業科目を必修とします。（本学部ディプロマ・ポリシー「3.」に対応する）

4. 自ら課題を見つけ、スポーツ健康科学分野の専門的な知識又は技能をもとに課題を解決できる能力を身に付けるため、全ての授業で学生が能動的に学ぶことを重視した教育方法を取り入れます。3年次からは、各専門コースにおいて、学生それぞれが目標とする知識や能力を身に付けるための専門性の高い科目を配置します。また、ゼミナールや卒業研究では、丁寧な個別指導によって、身に付けた知識やスキルを統合し、各専門分野での探究力を深化させ、他者への伝達力を養成する教育を行います。（本学部ディプロマ・ポリシー「4.」に対応する）

学修成果は、シラバスに明示された評価方法に基づき、授業科目の修得状況を総合的に評価します。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>）

（概要）

求める学生像

スポーツ健康科学部は、本学の学是「仁」及び理念「不断前進」の精神に基づき、「スポーツと健康」に関する多角的な視点、専門性並びに高い倫理観を備え、スポーツを通じて持続可能な社会の構築に貢献できる人材を養成するため、次のような学生を求めます。

1. 思いやりを持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 豊かな人間性を備え、コミュニケーション力を有する人
3. 幅広い教養と向学心を有し、自己研鑽に努めることができる人
4. 自ら問題を見つけ出し、知的好奇心を持って課題解決に取り組むことができる人
5. グローバル社会におけるスポーツ健康科学の発展に寄与する熱意の有る人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

スポーツ健康科学部では、主体的な勉学の習慣に加えて、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

1. 国語：国語で的確に理解し効果的に表現するために必要となる、基礎的な資質や能力
2. 英語：英語で情報や考えなどを的確に理解し、適切に表現し伝え合ううえで必要となる、基礎的な資質や能力
3. 数学：数学を活用して事象を考察するうえで必要となる、基礎的な資質や能力
4. 理科：自然の事物・現象について理解して科学的に探究するうえで必要となる、基礎的な資質や能力
5. 地理歴史・公民：国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要となる、基礎的な資質や能力
6. 保健体育：生涯にわたる心身の健康の保持増進や豊かなスポーツライフを考えるうえで必要となる、基礎的な資質や能力

入学者選抜の基本方針

スポーツ健康科学部は、自らの将来をよく考えて主体的に学ぶ力やコミュニケーション力、実践力等を見極めるために多様な選抜方法を採用しています。入学者選抜に当たっては、学力試験だけではなく小論文試験や面接試験を通して、また、高等学校等での学修状況や諸活動での取り組み、スポーツ活動なども評価対象に加えて、入学者の受け入れを総合的に判断します。

障害等のある方の受け入れ

スポーツ健康科学部では、障害等のある入学志願者について、可能な限り受け入れるという方針です。障害等のある入学志願者で、受験や修学、寮生活で特別な配慮を必要とする場合は、出願に先立ち相談に応じます。

学部等名 医療看護学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 医療看護学部は、学是である「仁」の精神に基づき、安心・安全で質の高い看護を提供し、さらに高度先進医療の一翼を担うことができる高い倫理観を兼ね備えた看護職者（看護師・保健師・助産師）の育成を目指すことを目的とする。そのために、以下の目標を定める。</p> <p>(1) 看護に関する確実な知識・技術を身につけ、身体のみならず心を癒す質の高い看護が実践できる看護実践能力を修得する。</p> <p>(2) 次世代の看護職者として国際的に通用し、広く保健・医療・福祉の分野において活躍できる能力を修得する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 医療看護学部は、教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる能力 2. 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて知識・技術を駆使し、エビデンスに基づいた看護を実践できる能力 3. 関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために必要な人間関係を構築できる能力 4. グローバリゼーションが進む現代社会に柔軟に対応でき、多様な価値観を理解し、適切な判断と問題解決ができる能力 5. 自己の知識、技術、態度を自ら評価し、他者からの評価も謙虚に受けとめ、探求心を持って自己研鑽できる能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 医療看護学部のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下に示す方針に基づいて授業科目を「人間と教養」、「人間の健康」、「看護の理論と方法」、「医療看護の統合と発展」の4つの科目群に編成し、それぞれを学年進行とともに段階的に着実に身に付けるように学修するカリキュラムを編成します。また、学修成果を適切に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな感性、教養及び高い倫理観を備え、他を思いやり、慈しむことのできる看護職者としての人間性を涵養するためにリベラルアーツ関連科目と専門を学ぶ上で必要な授業科目を全学年にわたりバランスよく配置します。 2. 個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて、エビデンスに基づいた看護を実践するために必要となる知識・技術を着実に身に付けるための授業科目を系統的配置し、高度な専門教育につながるカリキュラムを提供します。 3. 看護師・保健師・助産師としての実践能力を段階的に獲得するように授業科目を編成します。保健師や助産師の資格取得を希望する者にはそれぞれに必要な授業科目を適切な時期に配置します。 4. 実習・演習は、関連分野の人々と協働して、看護職者の役割を果たしていくために、保健医療チームの一員として多様な職種と連携できる看護職者を涵養する内容の授業科目を配置します。特に、分野別実習では、看護職者として必要となる基本的態度を身に付けます。 5. グローバリゼーションに対応できる看護職者となるために必要なリベラルアーツ関連科目を全学年に渡りバランスよく配置します。 6. 自己の知識、技術、態度を自ら客観的に評価し、他者からの評価を真摯に受けとめ、探求心を持って自己研鑽する態度を身に付けるために、授業におけるアクティブ・ラーニングを促進します。

7. 学修成果の評価は、授業の進度に合わせシラバスに明示された学修目標とコンピテンスに基づく小テスト・定期試験・レポート、実習評価等を含め、総合的評価を行います。加えて、学生自らの授業への取り組みの主観的評価、学生の学修状況や授業評価を活用して教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

医療看護学部は、学是である「仁」の精神の基に、順天堂の長い伝統と歴史を持つ看護学教育の中で培われた安心・安全で質の高い看護を提供し、さらに、高度先進医療の一翼を担うことができる高い倫理観を兼ね備えた看護職者（看護師・保健師・助産師）を育成するため、次のような資質を備えた学生を求めます。

求める学生像

1. 入学後の学修に必要な基礎学力が身に付いている人
2. 人に対して関心を持ち、「仁」の精神に共感できる人
3. 豊かな人間性、柔軟性と協調性を備えたコミュニケーション能力が身に付いている人
4. 国内外の保健・医療・福祉分野に広く貢献したいという志を持つ人
5. 自ら思考し、課題解決に向けて自己研鑽に取り組める人
6. 自己の健康に関心を持っている人

看護学を学ぶために必要となる大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

1. 文章の読解力及び論理的思考を適切に表現する力
2. 国際社会への関心とコミュニケーション手段としての国語や英語等の言語力
3. 生命現象を理解する上で必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識

入学者選抜の基本方針

医療看護学部は受験生の持つ資質や適性に応じて、複数の受験機会と多様な入試を実施します。特に、「仁」に共感できる人を選抜するために、学力試験に加えて受験生の人となりや感性と教養を見極める方法として、小論文試験や面接試験を実施することで入学者の受け入れを総合的に判断します。

学部等名 保健看護学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要) 学是である「仁」の精神に基づき、保健医療福祉の一翼を担う優れた看護実践力をもつ心温かで、地域の人々のヘルスプロモーションに貢献する国際性豊かな看護職者を養成する。</p> <p>(1) 科学的根拠に基づいた看護の基礎的な知識・技術を身に付け、心身を癒す看護実践能力を修得する。</p> <p>(2) 進歩・変化の著しい保健医療福祉分野において、創意工夫し、国際的に活躍できる素養を身につける。</p> <p>(3) 自らの健康を管理しながら主体的に看護学を探究する能力を身につける。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要) 保健看護学部にて4年以上在学し、学是である「仁」の精神を基盤に、「心身を癒す看護実践能力を修得する」という学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士（看護学）の学位を授与します。</p> <p>(1) 他への思いやり、慈しむ心、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力</p> <p>(2) 保健医療福祉において、科学的根拠に基づき看護を実践し、多職種と連携、協働できる能力</p> <p>(3) 情報化・グローバル化する社会で看護職者としての役割を担うために、豊かな教養・国際的視野を持ち、異文化を理解する能力</p> <p>(4) 看護学領域における課題を明確化し、科学的な方法を用いて、問題解決の道筋を構想する能力</p> <p>(5) 専門職者として自立的に研鑽し続け、専門性を発展させる能力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要) 保健看護学部の教育課程は、「人間と教養」「人間の健康」「看護の理論と方法」「保健看護の統合と発展」の4つの科目群により構成され、段階的に理解力が深められるように工夫しています。保健師課程は選択制としますが、新設科目を提供することにより、保健師国家試験受験資格を取得しない学生の学習意欲を継続させ、さらなる学習の発展を図り、卒業後のキャリアに生かせるよう工夫します。</p> <p>(1) 他への思いやり、慈しむ心、豊かな教養、高い倫理観を備え、良好な人間関係を築くことができる能力を涵養するためにリベラルアーツ関連科目を全学年にわたりバランスよく配置し、そこで培った仁の精神や倫理観を1～4年次に配置している看護専門科目及び看護学実習を通してさらに深めています。</p> <p>(2) 看護実践に必要な知識・技術及び態度を修得する「生活援助技術」を初年次より配置し、エビデンスに基づく看護技術の習得を目指します。「各領域看護方法論」では人々の保健医療福祉に関連した諸学問を総合的に活用し、看護の対象となる人々の成長発達、身体的、心理社会的、地域特性を捉え、「形態機能学」や「臨床医学」の科目で学んだ知識を活用しながら健康課題及び生活支援のアセスメントができるようにします。さらに臨地実習を通して段階的に看護実践能力の向上を図るように編成します。</p> <p>(3) 保健医療福祉における看護職者の専門性を自覚し、多職種での連携、協働できる能力を育成するために、1年次より早期に「地域包括ケア探索実習」や「多職種連携医療体験実習」を開始します。各学部、医学部附属病院、地域の保健医療福祉機関と連携し、「地</p>

域包括ケア実践統合実習」などを通して多職種での連携について学修できるよう工夫します。

(4) 進歩・変化の著しい保健医療福祉分野を総合的に理解し、創意工夫して課題解決するために、演習や実習科目を中心に集団での課題解決学習を取り入れます。

また、情報通信技術(ICT)を用いて情報を利活用する能力、情報リテラシーの獲得ができるように初年次から「データサイエンス導入」「データサイエンス実践」を配置し、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に対応するとともに、養護教諭2種免許状の取得要件(教育職員免許法施行規則第66条の6)を満たすようにします。さらに2年次には「看護とICT」の科目を配置します。学生個々が所有するパソコンやマルチメディア教室を活用しながらオンラインを活用した授業・実習を提供します。

(5) グローバル化する看護職者の活動の場で役割を担うために必要な外国語運用能力を高める英語科目を必修とし、国際的視野を持ち、異文化を理解する能力を高めるために2年次に「グローバル社会と看護」、4年次に「グローバルヘルス」を配置します。また、海外研修や国際オンライン研修を提供し、国際的視野を獲得できるようにします。

(6) 看護への関心を深め、探究心を持って研究に取り組むことができる能力を育成するために、初年度の「教養ゼミナール」や3・4年次に「卒業研究」を配置します。そしてリサーチマインドを持った臨床家、研究者、次世代を育成する教育者等、大学院進学等を含めたキャリア設計を描けるよう丁寧な個別指導を行います。

(7) 1年次よりスポーツ及び健康に関する科目を配置し、静岡県東部地域に位置する地域性を生かした「野外スポーツ実習」を行い、他学部との交流を通して、自らの健康維持増進に留意して能動的に学び続けることができるようにします。

(8) 3年次には「スポーツと看護」「クリティカル実践」「データサイエンスの看護への応用」「やさしい日本語と看護」を新設して、将来のキャリアに役立つように多様な学びが可能となるよう工夫します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価、コンピテンスの項目群を学生が参照し、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

保健看護学部は、順天堂の1896年から続く長い歴史と伝統ある看護教育を基盤として、充実した看護専門技術・実践力教育を行い、人間味ある感性豊かな看護職者(看護師・保健師)を育成します。そして、看護学及び関連領域の発展、地域の保健医療福祉の向上に貢献するとともに国際交流を図ることを目指しています。

順天堂の学是「仁」、これは順天堂大学のあり方や教育研究における考え方の拠り所となる大事な言葉で、他を思いやり、慈しむ心、即ち「仁」です。「仁」を大切に育み、全人教育に基づき「心身を癒す看護」を実践する次世代の人材を育成することを教育の理念としています。

求める学生像

保健看護学部は、学是「仁」の精神に基づき、心身を癒す看護を実践し、保健医療福祉の分野で貢献でき、さらに、国際的視野を持った看護職者(看護師・保健師)を養成するため、次のような意欲と資質を持った学生を求めます。

1. 本学の学是「仁」及び理念「不断前進」を理解し、自らの持つ感性と倫理観を絶えず磨いていく意欲の高い人
2. 看護・医療を学ぶための基礎学力を有している人
3. 国内外の保健医療福祉の分野に貢献したいという意志を有している人
4. 探究心を有している人
5. 自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

保健看護学部は、以下の能力を有する人を求めます。

1. 文章の読解力と自分の思考を表現する力
2. 国内外の人々とのコミュニケーションを実現できる能力としての基礎的な英語力
3. 看護を科学的に思考し実践するため、数学・理科の基礎的な知識

入学者選抜の基本方針

保健看護学部は、入学者選抜に当っては、多様な入試制度を用意し、学力試験だけではなく受験生の感性や人となり、教養を見極めるために、面接試験・小中高等学校における諸活動等を総合的に判断して、入学者を選抜します。

学部等名 国際教養学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 国際教養学部は、学是である「仁」の精神に基づき、グローバル化時代の国際社会に貢献できる能力の開発を目指し、グローバル化時代の時代にふさわしい国際教養を備え、多角的な視点を養い、論理的な思考力と分析力、実行力を身に付け、強い自立心と倫理観、問題解決能力を身に付けたグローバル市民を育成する。そのために、以下の目標を定める。 (1) グローバル市民として英語等外国語によるコミュニケーション能力を修得する。 (2) 国際社会で幅広く活躍するベースとなる国際教養を理解し、身に付ける。 (3) 国際社会の課題解決に取り組む意欲に溢れ、人間味豊かな人格を培う。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>(概要) 国際教養学部では、「仁」を学是、「不断前進」を理念、「三無主義」を学風とする精神の下、「グローバル市民の育成」という教育目標に沿って設定されたカリキュラムを履修し、所定の単位を修得するとともに、次の資質・能力を身に付けた者に対し、「学士(国際教養学)」の学位を授与します。 1. グローバル化が進む国際社会において、人間そのものとその社会的・文化的な営みを総合的に理解し、人間と社会、自然と科学、生命と健康、世界と日本を含む国際教養学に関連する広範な分野にわたる知識を修得し、それらを統合して活用する能力 2. 自分とは異なるアイデンティティを持つ人間や文化を理解する心を涵養し、多様性を尊重するとともに、寛容さを持って相互交流を図る能力 3. 母語及び母語以外の言語(外国語)でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力 4. グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化の違いを超えて活躍できる専門性(異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三領域)を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p> <p>国際教養学部においては、「仁」を学是、「普段前進」を理念、「三無主義」を学風とする精神の下、「グローバル市民」の育成を目指した教育課程を、四年間にわたって次のとおり編成します。 【導入期】 1. リベラルアーツの基礎 初年次に「国際教養概論～グローバル市民を目指して～」を履修し、異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三つの領域に触れ、これらの領域間の関係性についての理解を深めます。 2. コミュニケーション能力の基礎 リベラルアーツ演習を通じて、プレゼンテーション及びファシリテーションの技術を実践し、グローバル市民としての基本的なコミュニケーション能力を養います。 3. 多言語能力の育成 初年次及び二年次における外国語教育では、「複言語主義」と「言語文化アプローチ」に基づき、英語に加えてフランス語、スペイン語、中国語から一言語を選択し、履修します。授業を通じ、異文化コミュニケーションの重要性を学び、TOEFL等の国際標準の語学力測定試験による能力評価を行います。 【形成期】 4. リベラルアーツの深化 二年次には、健康及び医療を含む幅広い分野にわたる教養基盤科目と外国語科目を学</p>

び、文系・理系の区別なく、多様な知識と豊かな人間性・倫理観を培います。

5. 統合的学修への橋渡し

二年次より、異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三領域に関する必修科目を均等に履修します。これにより、学生は各領域の基礎知識を深め、領域間の相互関連性を理解し、社会における複合的な問題解決能力を養います。

【完成期】

6. 教養展開科目としての三領域学修

三年次以降、異文化コミュニケーション、グローバル社会、グローバルヘルスサービスの三領域に関する科目を教養展開科目として設定します。学生は、次に掲げる三つの領域にわたる科目を横断的に履修し、複眼的思考を促す教育編成を通じて、広範な視野と深い洞察力を養います。

(1) 異文化コミュニケーション領域：学生は、異なる文化間のコミュニケーションが内包し、表象する課題について深く理解し、多文化・多言語社会の構築に寄与する方法を学びます。

(2) グローバル社会領域：学生は、様々な主体から成るグローバル社会の在り様と、そこで展開されるグローバルな社会的課題、それらの背景や捉え方について学びます。

(3) グローバルヘルスサービス領域：学生は、生命、身体、健康及び医療に関わる日本及び世界の諸問題について学びます。

7. 専門的な外国語教育と国際経験の提供

学生の将来の進路に対応して、「国際共修科目」を設定し、英語を基本とした授業を海外からの留学生と共に履修します。また、フランス語、スペイン語、中国語の上級コースを提供します。さらに、海外留学及び「海外研修プログラム」を通じて実践的な国際経験を積む機会を学生に提供します。

8. 演習科目による専門性の深化

三年次及び四年次に設定される「グローバル市民演習」を通じ、学生は指定されたゼミナールのテーマに沿って、個人研究を深めます。

9. 卒業論文の指導と完成

学生は、所属ゼミナールで扱う専門分野の知識を基に、必要に応じて他分野の学修を取り入れながら、卒業論文を作成します。この過程を通じて、総合的な問題解決能力及び専門知識の応用能力が育成されます。

【キャリア形成における2つの柱】

10. キャリア形成支援の取り組み

入学直後の初年度より、学生の社会的及び経済的自立を促進するため、キャリア形成支援に焦点を当てた教育を実施します。「キャリア形成支援科目」を正規のカリキュラムとして組み込み、単位化を行います。

11. 教職課程の提供

中学校及び高等学校教諭（英語）の1種免許状取得を目指す学生は、指定された科目を履修し、所定の単位を修得することで、教員免許を得ることができます。

【学修方法】

12. アクティブ・ラーニングの促進

教育手法として、少人数制授業と協同学習を通じて学生の主体性を引き出すアクティブ・ラーニングを推進します。これにより、学生は自ら積極的に学習に参加し、深い理解を促進します。

【学修成果の評価】

13. 包括的な学修成果の評価

学修成果は、授業科目の修得状況に基づく客観的な評価と、コンピテンスの各項目を用いた自己評価により包括的に行います。この評価結果を用いて、教育内容及び方法の継続的な改善を図ります。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

国際教養学部の教育目的は、持続可能な未来の創造に寄与できるグローバル市民性(global citizenship)を涵養することにあります。人類の未来が持続可能であるためには、多様性の確保が必須であり、多文化多言語共生社会の構築に貢献できるグローバル市民が求められます。

本学部では、その教育理念を理解し、「多文化が共存する社会に貢献するグローバル市民」となる資質を備えた、次のような意欲的な学生を求めます。

求める学生像

1. 多文化理解力を深め、持続可能な未来に貢献しようとする人
グローバル化した世界の実態や課題、及びその背景を理解し、多様な文化や人間に対する知的関心と実践能力を兼ね備え、人類の持続可能な未来に貢献しようとする夢を持つ人 (求める要素：知識・技能)
2. 異文化コミュニケーションを志す人
自己のアイデンティティと母語能力を基に、論理的思考と豊かな表現力を活かし、外国語を通じて異文化を理解し、相互理解と交流を深めることを志向する人 (求める要素：思考力・判断力・表現力)
3. 自律的学習を続けるグローバル市民を目指す人
「グローバル市民」として、多文化共生社会に貢献することを目指し、生涯にわたり自律的な学びを継続する意志を持つ人 (求める要素：主体的な態度)

大学入学時までに身に付けておくべき教科・科目等

国際教養学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

1. 英語及び国語：国際社会において活躍できるためのコミュニケーション能力、基礎的な読解力、表現力、思考力
2. 社会：国際社会への関心・理解に必要な地理歴史・公民のうち、いずれかの科目についての基礎的な知識
3. 理科及び数学：生命現象・健康・医療を理解する上で必要となる生物や化学、数学等の自然科学の基礎的な知識
4. 課外活動、ボランティア活動、海外経験等を通じた主体性、自律性、積極性

入学者選抜の基本方針

本学部では複数の入学者選抜方法を組み合わせ、多様な背景を持った学生を積極的に受け入れます。また、高等学校での学修状況や諸活動での取り組み、ボランティア活動なども評価対象に加えて、入学者の受け入れを総合的に判断します。

学部等名 保健医療学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)
(概要) 保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とする。そのために、以下の目標を定める。 (1)人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力を身に付ける。 (2)医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力を身に付ける。 (3)自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力を身に付ける。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)
(概要) 保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。 <保健医療学部共通> 1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力 2. 医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力 3. 自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力 <理学療法学科> 保健医療学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（理学療法学）』の学位を授与します。 1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力 2. 理学療法を必要としている人々を全人的に理解する能力 3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている 4. 理学療法学を必要としている人々に対して、科学的根拠に基づき理学療法を実践できる能力 5. 理学療法学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力 <診療放射線学科> 保健医療学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（診療放射線学）』の学位を授与します。 1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力 2. 放射線技術を必要としている人々を全人的に理解する能力 3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている

4. 放射線技術の対象及び目的について理解し、健康や障害の状態に応じて科学的根拠に基づく放射線技術を実践できる能力
5. 放射線技術学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

保健医療学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『基礎分野』『専門基礎分野』及び『専門分野』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価とによって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

<保健医療学部共通>

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った理学療法士及び診療放射線技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習やゼミナール、実習・実験で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 医学と医療を総合的に理解し、科学的根拠に基づいた実践能力を修得し、主体的に行動できる能力を育成するために必要となる専門的知識・技術を着実に身につけ、高度な専門教育につながるカリキュラムを編成します。
3. 演習、ゼミナール、実習科目を通じて主体的に学修する能力と自己研鑽を続け、自己成長する態度を身につける教育を行います。
4. 「卒業研究」を必修科目として卒業論文を課し、卒業論文をまとめる過程を経験することにより主体性をもって研究を遂行できる能力を育成します。

<理学療法学科>

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った理学療法士を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習やゼミナール、実習で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 理学療法学の知識と基本となる理論を学修し、個人、家族及び地域社会の人々それぞれの健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた理学療法の治療技術を着実に身につけるための授業科目を体系的に配置し、高度な専門教育に繋がるカリキュラムを編成します。
3. 演習やゼミナール、実習による授業や『専門分野』総合領域の授業「理学療法研究法」「卒業研究」を学修することにより、主体性を持って学修や研究を継続して遂行し、自己研鑽して自己成長する態度を修得できるようにカリキュラムを編成します。

<診療放射線学科>

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を持った診療放射線技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワークによって相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習による医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 医学と医療を総合的に理解し、放射線医学領域に係る専門的知識と技術を着実に身につけるための授業科目を体系的に配置し、高度な専門教育に繋がるカリキュラムを編成します。
3. 演習・実習・実験による授業や『専門分野』総合領域の授業「卒業研究」を通して学修することにより、主体性を持って学修や研究を継続して遂行し、自己研鑽して自己成長する態度を修得できるようにカリキュラムを編成します。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

保健医療学部では、学是である「仁」の精神に基づき、順天堂の長い歴史と伝統の中で培われた安心・安全で質の高い保健医療を提供し、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた医療専門職者（理学療法士・診療放射線技師）を育成するため、以下のような資質を備えた学生を求めます。

求める学生像

<保健医療学部共通>

1. 「仁」の精神に共感でき、人に対する関心や思いやりがある人
 2. 入学後に学ぶ学問領域に興味を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
 3. 豊かな人間性、柔軟性と協調性を備え、他者との連携・協調を保てる人
 4. 国内外の保健医療福祉の分野に広く貢献したいという志のある人
 5. 高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身につけている人
 6. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人
- 各学科では、教育課程の内容に基づいて、次の能力を身に付けられる学生を求めます。

<理学療法学科>

1. 「気配り、目配り、思いやり」を持って他者との関わりを大切にし、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. ヒトの運動や動作のメカニズムに関心がある人
3. 理学療法士になる意思が強く、目標達成のために様々な方法を見つけ、粘り強く努力を続けることのできる人
4. 社会の動きに関心を持ち、コミュニケーション能力がある人

<診療放射線学科>

1. 人を思いやる心、労わる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 生命科学や放射線科学に興味を持ち、様々な分野で将来に亘り社会に貢献しようとする意欲のある人
3. 学ぶ意欲や挑戦しようとする意欲があり、粘り強く主体的に学習する意志のある人
4. 社会の動きに関心を持ち、コミュニケーション能力がある人

大学入学時まで身に付けておくべき教科・科目等

1. 生命現象・健康・医療を理解する上で必要となる数学・理科の基礎的な知識
2. グローバル社会への関心とコミュニケーションツールとしての英語等の語学力
3. 課外活動、ボランティア活動等を通じた主体性、自律性、積極性

入学者選抜の基本方針

保健医療学部は、学是「仁」に共感でき、豊かな感性を持った理学療法士・診療放射線技師を養成するため、多様な選抜方式を採用します。入学者選抜にあたっては、選抜方式ごとに学力試験や、小論文試験・面接試験などを実施して、入学者の受け入れを多面的・総合的に評価します。また、選抜方式によっては高等学校での学修状況や諸活動での取り組みなども評価対象に加えます。

学部等名 医療科学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)
(概要) 医療科学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観、豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び技術を教授研究して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とする。 1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力を身に付ける。 2. 良質な医療を提供するうえで求められる、患者や他の医療職者に対して適切にコミュニケーションできる能力を身に付ける。 3. 医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力を身に付ける。 4. 自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力を身に付ける。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)
(概要) 医療科学部では、医療科学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係る基本的知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。 ■医療科学部共通 1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力 2. 良質な医療を提供するうえで求められる、患者や他の医療職者に対して適切にコミュニケーションできる能力 3. 医学・医療に係る基本的知識を身につけるとともに、自己の専門分野における科学的根拠に基づいた体系的な専門的知識を修得し、実践能力を発揮することができる能力 4. 自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力 ■臨床検査学科 医療科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（臨床検査学）』の学位を授与します。 1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力 2. 他者の思いや考えを理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力 3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている 4. 臨床検査及び周辺領域に関する専門的知識と医療技術を持ち、科学的根拠に基づいた有効な臨床検査を実践できる能力 5. 臨床検査学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力 ■臨床工学科 医療科学部共通の資質・能力に加え、次の資質・能力を身に付けた者に『学士（臨床工学）』の学位を授与します。 1. 人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力

2. 他者の思いや考えを理解し、良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力
3. 人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている
4. 医療機器の高度化・多様化に対応し、科学的根拠に基づいた医療機器の管理・操作・保守・点検を実践できる確実な専門的知識と技術
5. 臨床工学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

医療科学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『基礎分野』『専門基礎分野』及び『専門分野』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。

■医療科学部共通

1. 人間尊重の理念、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った臨床検査技師及び臨床工学技士を育成するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の理解を深めるとともに、『専門基礎分野』『専門分野』における演習、実習・実験で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識する。臨床実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
2. 医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を理解し、演習・実習科目でグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成し、臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解できるようにカリキュラムを編成します。
3. 医学と医療に係る基本的知識を基に主体的に行動できる能力を育成するために必要となる科学的根拠に基づいた専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成します。
4. 演習科目や実習科目等を配置し、自ら学修する能力を備え、自己研鑽を続けて自己成長する態度を身につける教育を行います。
5. 『総合研究』に配置する授業科目を学修し、特別研究や卒業研究に取り組み、課題を発し、まとめる過程を学修することにより、主体性をもって課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を育成します。

■臨床検査学科

1. 人間尊重の理念、高い倫理観と豊かな人間性を併せ持った臨床検査技師を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
2. 医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を学修し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成する。臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解することができるようにカリキュラムを編成する。
3. 医学・医療及び臨床検査学の知識と基本となる理論を学修し、対象となる人々の健康レベルに応じて科学的根拠に基づいた臨床検査技術を着実に身につけるための授業科目を『専門基礎分野』及び『専門分野』において体系的に配置し、専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成する。
4. 『総合研究』に配置する授業科目を学修し、課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を図り、生涯を通して継続して学修に取り組むことができるようにカリキュラムを

編成する。

■臨床工学科

1. 人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を併せ持った臨床工学技士を育成するため、『基礎分野』人間科学系の選択科目を学修して人間の理解を深め、演習や実習で行うグループワーク等を通して相手の立場に立って物事を考える大切さを認識し、臨床実習により医療現場において患者との対応を経験するなかで思いやりや態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
2. 医療専門職者として必要な協調性とコミュニケーション能力を涵養するため、『基礎分野』の科目を学修して人間の心理や人間関係の基本的あり方を学修し、演習・実習科目でのグループワーク等により相手との協調性やコミュニケーション能力を養成する。臨床実習の経験の中で他職種者連携に関する理解を深め、患者との対応を通してコミュニケーションの重要性を理解することができるようにカリキュラムを編成する。
3. 医学・医療と工学を総合的に理解し、臨床工学領域に係る専的知識と技術を着実に身につけるための授業科目を『専門基礎分野』及び『専門分野』において体系的に配置し、専門的知識と技術を着実に修得できるようにカリキュラムを編成する。
4. 『総合研究』に配置する授業科目を学修し、課題解決や研究を遂行できる基礎的な能力の育成を図り、生涯を通して継続して学修に取り組むことができるようにカリキュラムを編成する。

学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価によって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

医療科学部では、学是である「仁」の精神の基づき、順天堂の長い歴史と伝統の中で培われた安心・安全で質の高い医療を提供し、高い倫理観と豊かな人間性を兼ね備えた医療専門職者（臨床検査技師・臨床工学技士）を育成する。

従って、入学者には以下のような資質及び素養を備えた学生を求める。

■医療科学部共通

1. 「仁」の精神に共感し、人に対する関心や思いやりがある人
 2. 豊かな人間性、柔軟性と協調性を備え、他者との連携・協調を保てる人
 3. 入学後に学ぶ学問領域に興味を持ち、自ら積極的に学ぶ姿勢・態度を有している人
 4. 国内外の医学・医療科学の分野に広く貢献したいという志のある人
 5. 高等学校等において能動的に幅広く学び、入学後の学修に必要な基礎学力を身につけている人
 6. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人
- 各学科では、教育課程の内容に基づいて、次の能力を身に付けられる学生を求めます。

■臨床検査学科

1. 人を思いやり、労わる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 医療や臨床検査に高い関心を持ち、臨床検査技師になる意思が強い人
3. 自己研鑽の意欲があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、主体的に粘り強く努力を続けることのできる人
4. 社会の動きに関心を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人

■臨床工学科

1. 人を思いやり、労わる心を持ち、相手の立場に立って物事を考えることができる人
2. 医療や臨床工学に高い関心を持ち、臨床工学技士になる意思が強い人
3. 自己研鑽の意欲があり、目標達成のために様々な方法を見つけ、主体的に粘り強く努力を続けることのできる人
4. 社会の動きに関心を持ち、協調性やコミュニケーション能力がある人

学部等名 健康データサイエンス学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要) 健康データサイエンス学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成する」ことを教育研究上の目的とします。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要) 健康データサイエンス学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に次の資質・能力を身に付けた者に対し、学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学是「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、グローバル社会におけるコミュニケーション能力や国際的視野という国際性を備え、社会に貢献できる能力 2. データサイエンスの基礎となる数理統計、コンピュータサイエンス等の理論と実践を学修し、データの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術 3. データサイエンスの専門知識と技術を応用して健康・医療・スポーツ領域において新たな価値を生み出すために必要となる健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識 4. データサイエンスの専門知識と技術を応用して健康・医療・スポーツ領域における課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことができる実践能力 5. 健康・医療・スポーツ領域の専門性を有する人達と円滑なコミュニケーションを図り、協同して現場での課題に対応することができるプレゼンテーション能力 6. 健康・医療・スポーツ領域におけるデータサイエンスに興味や関心を持ち続け、自律的な学修を継続して自己成長する態度
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/corp/about/information.html)</p>
<p>(概要) 健康データサイエンス学部では、ディプロマ・ポリシーに示す資質・能力を身に付けるために、授業科目を『一般教養科目』『専門科目』に区分し、それぞれの教育が有機的に連動し、基礎から応用、応用から発展に向けて段階的に関連性を持ち、体系的に学修できるようにカリキュラムを編成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 『一般教養科目』の科目を学修して、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、グローバル社会におけるコミュニケーション能力や国際的視野という国際性を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。 2. 『専門基礎科目』に配置される『コンピュータ基礎科目』『数理統計データサイエンス基礎科目』及び『専門展開科目』に配置される『コンピュータ科目』『数理統計データサイエンス科目』の科目を学修して、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、ネ

ットワーク、プログラミング及び情報セキュリティや数理統計に関する基礎から応用に至る知識と技術を身につけ、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得することができるようにカリキュラムを編成します。

3. 『専門基礎科目』『健康医療スポーツ科目』の科目を学修して、健康・医療・スポーツ領域に関する基本的知識を身につけ、健康・医療・スポーツ領域におけるデータサイエンスの必要性や発展について着実に修得できるようにカリキュラムを編成します。
4. 『専門展開科目』『健康医療データサイエンス科目』『スポーツデータサイエンス科目』の科目を学修して、健康・医療・スポーツ領域における多様なデータを収集・加工・分析・解析する専門知識と技術を修得し、課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことができる実践能力を修得できるようにカリキュラムを編成します。
5. 『総合研究』の科目を学修して、実務家による講義や実社会での体験を通して各自の研究分野に対するモチベーションを高め、総合演習を経て卒業研究に取り組むことにより、個々の研究課題を設定し必要な状況を論理的に分析・解析し、解決策を提示する能力を修得できるようにカリキュラムを編成します。
6. 『専門科目』におけるグループワークを通して、課題解決に向けての論理的な思考やプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身につけることができるようにカリキュラムを編成します。
7. 『専門科目』の科目を学修して、自律的な学修を継続して自己研鑽を続け、自己成長する態度を身につけることができるようにカリキュラムを編成する。
学修成果は、授業科目の修得状況による客観的評価と、定期的に自己のパフォーマンスを評価する主観的評価とによって包括的に評価します。評価結果の活用を通じて、教育方法の改善につなげていきます。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>)

(概要)

求める学生像

健康データサイエンス学部では、学是である「仁」の精神に基づき、幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と高い倫理観、国際性を育み、数理統計、コンピュータサイエンスの基礎の上にデータの収集・加工・分析・解析等、データサイエンスに関する専門知識と技術を修得するとともに、健康・医療・スポーツ領域を理解するための基本的な知識を学修し、健康・医療・スポーツ領域に係るデータを基にデータサイエンスを応用して課題解決の方策を考案・提言し、新たな価値やサービスを生み出すことのできる実践能力を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続できる人材を養成する。従って、入学者には以下のような資質及び素養を備えた学生を求める。

1. 「仁」の精神に共感し、豊かな人間性、協調性を備え、多様な人々と連携し、協働できる人
2. 数理統計、コンピュータ及びそれらを基礎としたデータサイエンスに対し関心を持ち、自ら積極的に学ぶ意欲・態度を有している人
3. 健康・医療・スポーツ領域の発展に広く貢献したいという意欲を持つ人
4. 高等学校等において能動的にバランスよく学修し、入学後の学修に必要な基礎学力を有する人
5. 基本的な生活態度が身につけており、心身の健康に気を配れる人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

1. データサイエンスを理解する上で必要となる数学・理科の基礎的な知識
2. グローバル社会への関心とコミュニケーションツールとしての英語等の語学力
3. 課外活動、ボランティア活動等を通じた主体性、自律性、積極性

入学者選抜の基本方針

健康データサイエンス学部は、学是「仁」に共感でき、豊かな感性を持った健康データ

サイエンティストを養成するため、入学者選抜方法として学力試験に加えて小論文試験や面接試験を実施し、教科・科目の成績だけでなくの受験生の人となりや感性・態度・素質等を見て入学者希望者を多面的・総合的に評価します。

<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部は、学是「仁」の精神に基づき、薬学に係わる専門知識や技能を身に付け、医療機関や地域医療において多職種と連携して実践的な能力を発揮できる資質の高い人材を養成することを目的とする。そのために、以下の目標を定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①豊かな人間性と高い責任感・倫理観を備え、不断前進の自己研鑽を行える能力を修得する。 ②幅広い教養とグローバルな視点を持ち、社会に適切かつ柔軟に対応できる能力を修得する。 ③薬学の社会的位置づけを理解し、地域医療に貢献する能力を修得する。 ④薬剤師、薬学研究者等の薬学専門職者としての専門知識・技能及び態度を修得する。 ⑤医療、健康・福祉に係る問題を、多職種と協働して解決を図ることができる能力を修得する。
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部では、学是「仁」の精神に基づき、医療、健康・福祉、社会の発展に貢献できる薬剤師や薬学研究者等の薬学専門職者の育成のために策定した各年次のカリキュラムを履修し、かつ定められた基準に合格することによって、順天堂大学薬学部のコンピテンシーを身に付け、次の資質・能力を修得した者に対して学士（薬学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医療人として豊かな人間性と高い責任感と倫理観を持ち、生涯に渡りアクティブに自分の目標に向けた学習をするための不断前進の態度・習慣を身につけ、他を思いやり慈しむ心（学是「仁」）を持った行動ができる。 ②幅広い教養とグローバル化に対応できる国際感覚を持ち、他者と信頼関係を構築することができ、良好なコミュニケーションがとれる。 ③薬学の社会的位置づけを理解し、社会医学、地域包括ケアシステム、プライマリ・ケアを理解したうえで、地域医療と健康・福祉に果たすべき薬学専門職の役割を担うことができる。 ④科学的根拠に基づいた医療・薬学研究を行うための基礎、臨床の薬学的知識を有し、体系的に理解し説明でき、問題解決のために論理的に思考できる。 ⑤薬学専門職として、適切に多職種と連携協働することができ、主体的かつ協調性を持って問題解決を図ることができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能、態度を修得するため、次に示すカリキュラム・ポリシーに基づき教育課程を編成・実施し、それぞれの学修目標の到達度を適正に評価するための方法及び基準を定め、これをシラバスに明記して学生に周知し、学修成果を厳格かつ公正に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①高い倫理観、責任感と幅広い視野を備えた見識を持ち、自己研鑽意欲を高め、主体的に学び研究活動ができる能力の獲得へと繋がる教育科目を配置する。 ②社会を理解しグローバル化に対応した国際感覚や語学力を有する薬剤師を育成するために、全学年を通じて論理的・批判的思考力、コミュニケーション能力、国際性、

<p>協調性、自己管理能力を養う教育科目を配置する。</p> <p>③薬学専門職としての視点・視野・価値観を持ち、医療における薬学の社会的責任と要請を理解し、高度化、専門化する医療に対応できる薬剤師を育成するための専門教育科目を系統的かつ累進的に配置する。</p> <p>④薬学研究に必要な知識・技術・技能および思考力を統合させた問題探索・解決能力を養成し、臨床的視点を持った薬学専門職者として創造性を発揮できる能力を育む科目を配置する。</p> <p>⑤薬学専門職としてチーム医療や地域医療連携、健康・福祉の場において活躍する薬剤師に不可欠な資質が伴ったコミュニケーション能力を修得するために、多職種連携に関わる他学部との合同講義、演習・実習科目を配置する。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/)</p>
<p>(概要)</p> <p>薬学部では、学是「仁」の精神に基づき、薬学に関する多角的な視点、専門性を備え、医療、健康・福祉、社会の発展に貢献できる人材を養成します。次のような資質を備えた学生を求めます。</p> <p>①一人の人間として相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観、責任感をもって行動できる人。</p> <p>②豊かな人間性と協調性を備えた高いコミュニケーション能力と多様かつ柔軟な価値観を持つ人。</p> <p>③グローバル化した世界の医療分野で貢献しようとする強い意欲がある人。</p> <p>④生涯にわたり、自己研鑽・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲がある人。</p> <p>⑤医療、健康・福祉に対する深い関心と問題意識を持ち、社会に貢献したいという強い意欲がある人。</p> <p>⑥高等学校で学習する、化学・生物・数学・物理等の自然科学についての十分な知識及び英語等のグローバル社会で貢献し、人間性を豊かにするコミュニケーション能力と知識や科学的な思考力・探究心を持つ人。</p>

② 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
医学部（群）（専門課程）	—	11人	415人	5人	361人	499人	1,291人
スポーツ健康科学部	—	6人	42人	1人	15人	2人	66人
医療看護学部	—	1人	22人	1人	22人	2人	48人
保健看護学部	—	13人	12人	5人	7人	4人	41人
国際教養学部	—	14人	21人	0人	5人	0人	40人
保健医療学部	—	11人	17人	3人	8人	0人	39人
医療科学部	—	13人	4人	4人	6人	0人	27人
健康データサイエンス学部	—	1人	2人	1人	4人	0人	8人
薬学部	—	19人	16人	5人	4人	0人	44人
教養部（一般教育）	—	3人	11人	0人	2人	0人	16人
その他	—	0人	0人	0人	0人	0人	0人
大学院	—	263人	78人	3人	46人	8人	398人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		3,563人					3,563人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://kenkyudb.juntendo.ac.jp/					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医学部	138人	138人	100.0%	827人	830人	100.4%	0人	0人
スポーツ健康科学部	600人	618人	103.0%	2,400人	2,459人	102.5%	0人	0人
医療看護学部	220人	222人	100.9%	880人	869人	98.8%	0人	0人
保健看護学部	160人	163人	101.9%	580人	589人	101.6%	0人	0人
国際教養学部	240人	251人	104.6%	960人	950人	99.0%	0人	0人
保健医療学部	240人	251人	104.6%	960人	976人	101.7%	0人	0人
医療科学部	180人	198人	110.0%	720人	743人	103.2%	0人	0人
健康データサイエンス学部	100人	106人	106.0%	300人	316人	105.3%	0人	0人
薬学部	180人	183人	101.7%	360人	368人	102.2%	0人	0人
合計	2,058人	2,130人	103.5%	7,987人	8,100人	101.4%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医学部	139人 (100.0%)	0人 (0.0%)	136人 (97.8%)	3人 (2.2%)
スポーツ健康科学部	585人 (100.0%)	43人 (7.4%)	502人 (85.8%)	40人 (6.8%)
医療看護学部	195人 (100.0%)	3人 (1.5%)	188人 (96.4%)	4人 (2.1%)
保健看護学部	119人 (100.0%)	4人 (3.4%)	113人 (95.0%)	2人 (1.7%)
国際教養学部	216人 (100.0%)	15人 (6.9%)	183人 (84.7%)	18人 (8.3%)
保健医療学部	231人 (100.0%)	27人 (11.7%)	196人 (84.8%)	8人 (3.5%)
合計	1,485人 (100.0%)	92人 (6.2%)	1,318人 (88.8%)	75人 (5.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

教育要項(シラバス)に各授業科目の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を掲載している。

各学部の作成・公表に係る取扱いは次の通りである。

<1> 医学部

履修要項、授業計画書(シラバス)の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。

- ・12月中旬～2月上旬頃：カリキュラム委員会において、次年度のカリキュラム大枠が承認された後、科目担当講座・教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。事務局で履修要項の原案作成を開始。
- ・1月上旬頃～3月上旬頃：作成
- ・3月下旬頃まで：内容チェック
- ・3月末：新年度オリエンテーション実施日に公表。

記載内容は、履修要項(各ポリシー、コンピテンシー、カリキュラム表、進級判定基準、他)、シラバス(学習内容・概要、学習目標(一般目標・到達目標)、自己学習(準備学習)、学習上の注意点、課題に関するフィードバック、成績評価方法・基準、担当教員等)としている。

<2> スポーツ健康科学部

学部内の全教員に対してスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配信して、統一の基準で作成をしている。

③ 作成過程及び作成時期

- ・12月中旬 科目担当教員にシラバス作成依頼
- ・1月上旬 科目担当教員からシラバスが提出
- ・1月中旬 カリキュラム委員会、教務委員会、FD・SD委員会によるシラバスチェック(～2月上旬)
- ・2月中旬 シラバスチェックのフィードバック及び修正(～2月下旬)

②公表時期

- ・3月下旬 シラバス公表

<3> 医療看護学部

毎年度、シラバス作成要領を科目担当者に配布し更新を行っており、更に教員同士のピアレビューを行い点検と改善を図っている。例年、12月～3月に作成を行い、新学期開始に合わせて3月下旬にHPで公表している。

記載内容は、当該科目のディプロマポリシー及びコンピテンシーとの関連、授業における学習の到達目標及び成績評価の方法・基準、準備学習(予習・復習等)の具体的な内容、課題(試験やレポート等)に対する学生へのフィードバック、担当教員(実務経験の有無を含む)等としている。

<4> 保健看護学部

カリキュラム委員会による「シラバス記載要項」に基づき、科目責任者がシラバスを作成し、講師以上の専任教員がピアレビューを行い、内容を点検している。

学内ポータルサイトへ掲載すると共に、保健看護学部ホームページにも掲載して公表している。

<5> 国際教養学部

授業計画書（シラバス）の作成過程・公表時期については以下の通り実施している。

- ・ 11月中旬～12月上旬頃
後期授業開始後（10月）、一定期間を経過した後に科目担当教員宛に次年度に向けたシラバス作成依頼を開始。
- ・ 1月上旬頃
作成〆切
- ・ 3月下旬頃まで
作成された内容のチェック
- ・ 4月以降
新学期開始と同時に公表
記載内容は、授業の方法、内容、到達（達成）目標、成績評価方法、予習復習等の授業外の学修内容、オフィスアワー、授業回数、担当教員、ディプロマポリシーとの関連、カリキュラム体系との関連（ナンバリング）等としている。なお、実務経験のある教員等による授業科目の場合は、その旨を記載している。

<6> 保健医療学部

開講しているすべての科目についてシラバスを作成し、カリキュラム委員会を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。作成されたシラバスについては、WEB上で公表をしている

<7> 医療科学部

授業担当教員に対してシラバス作成のスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配布し、両学科統一の基準で作成している。履修要項に、カリキュラムマップ及びツリー、コンピテンシー達成レベルを掲載し可視化を図っている。

<8> 健康データサイエンス学部

授業担当教員に対してシラバス作成のスケジュールや作成手順を明記した「シラバス作成の手引き」を配布し、学部科統一の基準で作成している。また、カリキュラム委員会を中心にピアレビューを行い点検と改善を図っている。

<9> 薬学部

学生の履修指導に効果が上がるように毎年度シラバスを作成し、効果的に活用する。教務委員会が中心となりシラバスの記載内容を点検する。授業担当教員は教務委員会の意見や学生による授業評価を参照にしながら毎年シラバス記載内容を吟味し、改善点を策定した上で作成する。シラバスには授業科目の概要、ディプロマ・ポリシーとの関連、到達目標、講義内容、授業方法、予習・復習、成績評価の方法と基準、教科書及び参考図書等を記載する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

<1> 医学部

①学修の成果に係る評価について

各学生の学修成果に基づき、予め設定されている以下の成績評価基準により単位を授与している。当該基準は、履修要項の共通事項において学生に周知するとともに電子媒体として適宜ダウンロードできるように配慮している。

各科目の成績評価方法は授業内評価、定期試験、実習評価、レポート課題等、授業内容の特性に応じて設定し、授業計画書(シラバス)に明記のうえ学生に周知している。

なお、一部の科目については外部検定試験の結果を活用した成績評価を行い、客観的方法・基準に基づいて評価を行っている。

判定	評価	評点	G P	内容
合格	S	100点～90点	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。
	A	89点～80点	3	到達目標を十分に達成している。
	B	79点～70点	2	到達目標を相応に達成している。
	C	69点～60点	1	到達目標の最低限は満たしている。
不合格	D	59点～0点	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない。
失格	失格(G)	/	-	全授業数の3分の1を超える欠席の場合試験を放棄した場合(未受験および受験資格なし)

※失格(G) (「/」)はGPA算出の対象外となる。

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与に関する方針)を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては履修要項の共通事項上に記載のうえ、新学期オリエンテーションにおいて配布している。

<2> スポーツ健康科学部

①学修の成果に係る評価について

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及びGPAについて公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である。(100～90点)
A	3	到達目標を十分に達成している。(89～80点)
B	2	到達目標を相応に達成している。(79～70点)
C	1	到達目標の最低限は満たしている。(69～60点)
D	0	到達目標の最低限の基準を満たしていない。(59～0点)
F	0	受験資格なし(出席不足)
W	対象外	履修中止
/	対象外	保留(実技・実習科目において課題未取得もの)
N	対象外	認定

- ・「S」「A」「B」「C」を合格とし、所定の単位を付与。
- ・「D」「F」は不合格。不合格科目については、当該年度の成績通知書にのみ記載され、成績証明書には記載されない。
- ・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験(追試験・再試験を含む)の受験、単位の修得は認めない。当該年度の成績通知書にのみ記載され、成績証明書には記載されない。

- ・成績を段階評価することになじまない科目及び編入学、転入学などにより、本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」（認定）で表示する。

②GPA

- ・GPA は 4.0～0.0 という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることになる。
- ・GPA 算出式

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値(履修した授業科目の単位数} \times \text{GP)の合計}}{\text{総履修単位数(卒業所要単位にカウントできない科目を除く)}}$$

- ・目的
取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
- ・GPA の利用
GPA の点数により翌年度の履修登録可能単位数に影響を及ぼし、基準以下の学生には退学勧告を行う場合がある。また学内の順位づけにも利用する。国内だけでなく、国外の大学でも導入され、海外留学時に選考資料の一部になることもある。
- ・注意
履修登録した科目は、所定期間内に履修中止手続きをしない限り GPA の対象となる。安易な履修放棄は GPA の低下につながる。(成績評価「F」も分母に含まれる。)

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を定め、ホームページや全学生に配布している「履修要項」にも明記している。スポーツ健康科学部に4年以上在学し、学則第98条の規定により124単位以上を取得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。なお、卒業に必要な単位として算入される科目と、資格課程等の取得を目的として修得する科目など卒業に必要な単位として算入されない科目がある。

<3> 医療看護学部

①学修の成果に係る評価について

GPA 評価を導入しており、評価は、S(4.0) A(3.0) B(2.0) C(1.0) D(0.0)としている。評価の算出方法は次の通りである。

修得ポイント = (授業科目単位数) × (その科目の Grade Point)。GPA = (修得ポイントの合計) ÷ (履修した授業科目の単位数の合計)。

GPA は進級判定、卒業判定、退学勧告の基準として活用しているほか、助産師国家試験受験資格取得科目の履修者選抜試験や海外研修の参加条件等における総合判定データのひとつとして利用しており、算出方法は前述の通りである。また、これらは履修要項に明示しており、HP で公表している。

評価	判定	基準点数
S	合格(単位修得認定)	90点以上
A		89～80点
B		79～70点
C		69～60点
C		再試験合格(60点)
D	不合格(単位修得不可)	59～0点

評価	判定	備考
E	途中棄権	履修登録したにもかかわらず、履修を取消した場合 ※成績通知書には記載しますが、成績証明書には記載しません
N	単位認定	本学部以外で取得した単位を認定した場合

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を定め、履修要項や学生募集要項等に掲載し、ホームページ上で公表している。また、ディプロマポリシーを達成するために必要な能力として10分類、48項目のコンピテンシーを設定しており、各科目とコンピテンシーの対応表と併せて履修要項に掲載している。卒業判定においては、ディプロマポリシー及び学生の修得単位数等を踏まえ、適正に判定を行っている。

＜4＞ 保健看護学部

①学修の成果に係る評価について

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及びGPAについて公表し、厳格に運用をしている。

・成績の評価

通年授業科目についても各期に試験を行い、平素の学習状況、授業時間内に行われるテスト、レポート提出等を総合的に評価して成績評価を行う。

成績評価の表示は、次の基準により行うものとする。

令和4年度以降入学生		令和3年度以前入学生	
90点以上 100点まで	S		
80点以上 90点未満	A	80点以上 100点まで	A
70点以上 80点未満	B	70点以上 80点未満	B
60点以上 70点未満	C	60点以上 70点未満	C
60点未満（不合格）	D	60点未満（不合格）	E

・GPA (Grade Point Average)

各学年における成績評価を客観化するために、グレード・ポイント・アベレージ（以下、GPA）制度を利用するものとする。GPAは、学生に対する学習指導、奨学生の推薦、海外研修参加、進級及び卒業認定にあたっての参考資料に利用するものとする。GPA 2.5点以下（2021年度以前入学者）、2.0点以下（2022年度入学生以後）の場合は、進級判定・卒業判定において審議対象となる。GPA 1.0点以下の場合は、退学勧告を行う。（本人・保護者との面談を実施し、退学するか学修を継続するかは本人が選択する）

GPA＝〔修得ポイントの合計÷履修した授業科目の単位数の合計〕で示し（少数点第3以下切捨て）、修得ポイント＝〔授業科目単位数×その科目のGrade Point〕とする。

Grade Pointは成績評価に基づき次のように対応する。

令和4年度以降入学生	S	A	B	C	D
	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0
令和3年度以前入学生	A	B	C	D	E
	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0

(ア) ①＝履修した授業科目の単位数×履修した授業科目の成績評価のGrade Point

(イ) 当該学年の①の合計＝②

(ウ) 当該学年に履修した授業科目の単位数の合計＝③

(エ) GPA＝②÷③(小数点第3以下切り捨て)

②卒業の認定に当たっての基準について

各科目のシラバスに成績評価の基準を明示している。また全学生に配布している「履修要項」において、授業、試験、成績及び単位認定について公表し、厳格に運用をしている。

<5> 国際教養学部

①学修の成果に係る評価について

GPA 制度を導入しており、以下の設定としている。ホームページ上でも公表している。成績の分布状況の把握は半期毎に教務委員会や教授会を通じて把握している。把握するために開示している学生情報は主に以下の通りとしている。

- ・ 席次・取得科目数・欠点科目数・平均点・GPA・取得単位数（合計）
- ・ 履修科目の評価点（100 点満点）等

その他、付随情報として科目毎の最高点、最低点、平均点、標準偏差 等も共有されている。なお、学生は常時自身の GPA の数値が確認できるように教学システム(Juntendo-Passport)上で公開している。

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。併せて、学生に対しては履修要項に記載のうえ、新学期ガイダンスにおいて配布するとともに学生専用ホームページ上において電子媒体として適宜ダウンロードできるよう配慮している。

<6> 保健医療学部

①学修の成果に係る評価について

成績評価において、修得した成績に対する GP を定め GPA 制度を導入している。GPA の算出方法についてはシラバスに明記し、学生及び教員に周知している。取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。

履修登録した科目は、所定期間内に履修中止手続きをしない限り GPA の対象となり、安易な履修放棄は GPA の低下につながる。（履修中止科目は除外する）

- ・ GPA 算出式

具体的な計算方法

$$\frac{(4.0 \times S \text{の修得単位数}) + (3.0 \times A \text{の修得単位数}) + (2.0 \times B \text{の修得単位数}) + (1.0 \times C \text{の修得単位数})}{\text{総履修登録単位数（「不合格」の単位数を含む。）}}$$

* GPAの算出対象についてはP.44「◆成績について」のページも併せて参照してください。

具体的な計算方法

$$\frac{4.0 \times S \text{の修得単位数} + 3.0 \times A \text{の修得単位数} + 2.0 \times B \text{の修得単位数} + 1.0 \times C \text{の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数（「不合格（D）」の単位数を含む。履修中止科目は除外する。）}}$$

* 卒業要件とならない科目は、GPAの算出から除外する。

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページに掲載し公表している。ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）及び修得単位数等に基づき卒業判定会議にて適切に判定を行い、教授会の審議を経て卒業資格の認定を行っている。

<7> 医療科学部

①学修の成果に係る評価について

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である (90~100 点)
A	3	到達目標を十分に達成している (80~89 点)
B	2	到達目標を相応に達成している (70~79 点)
C	1	到達目標の最低限は満たしている (60~69 点)
D	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない (59 点以下)
F	0	受験資格なし (出席不足)
W	対象外	履修中止
N	対象外	認定

- ・「S」「A」「B」「C」を合格とし、所定の単位を付与。
- ・「D」「F」は不合格。
- ・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。
- ・本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」で表示する。

②GPA

- ・GPA は 4.0~0.0 という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることとなる。
- ・GPA 算出式は以下の通り。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値 (履修した授業科目の単位数} \times \text{GP) の合計}}{\text{総履修単位数 (卒業所要単位にカウントできない科目を除く)}}$$

- ・取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
- ・GPA の点数は、進級判定・卒業判定の判断指標にもなり、GPA2.0 未満の学生はクラスアドバイザーとの面談、GPA1.5 未満の学生は留年、GPA1.0 未満の学生は退学となる場合がある。また研究室配属やゼミ選抜の際の資料として利用される場合もある。
- ・履修登録した科目は、所定期間内に履修中止申請を行わない限り GPA の対象となる。

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロ・マポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。

医療科学部に 4 年以上在学し、学則第 144 条の規程により 129 単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。

<8> 健康データサイエンス学部

①学修の成果に係る評価について

全学生に配布している「履修要項」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

①成績表示

評価	GP	評価内容
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である (90~100 点)
A	3	到達目標を十分に達成している (80~89 点)
B	2	到達目標を相応に達成している (70~79 点)

C	1	到達目標の最低限は満たしている (60～69 点)
D	0	到達目標の最低限の水準を満たしていない (59 点以下)
F	0	受験資格なし (出席不足)
W	対象外	履修中止
S	4	到達目標を十分に達成し、極めて優秀である (90～100 点)

- ・「S」「A」「B」「C」を合格とし、所定の単位を付与。
- ・「D」「F」は不合格。
- ・履修中止を行った科目の成績は「W」と表示され、当該年度授業の出席や試験（追試験・再試験を含む）の受験、単位の修得は認めない。
- ・本学以外で修得した科目を本学で認定する場合は「N」で表示する。

②GPA

- ・GPA は 4.0～0.0 という数字で表され、この数値が高いほど優秀な成績を修めていることとなる。
- ・GPA 算出式は以下の通り。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修科目の成績評価の平均を示す値 (履修した授業科目の単位数} \times \text{GP) の合計}}{\text{総履修単位数 (卒業所要単位にカウントできない科目を除く)}}$$

- ・取得単位の評価がどのようなものなのかを可視化することで、個々の学修の質を高める。
- ・GPA の点数により、様々な学内選考（進級や卒業判定等）の指標の 1 つとして利用される他、基準以下（1.0 以下）の学生には留年または退学勧告を行う場合がある。
- ・履修登録した科目は、所定期間内に履修中止申請を行わない限り GPA の対象となる。

②卒業の認定に当たっての基準について

ディプロ・マポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上で公表している。

健康データサイエンス学部は 4 年以上在学し、学則第 154 条の規程により 127 単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。

<9> 薬学部

①学修の成果に係る評価について

全学生に配布している「学修要覧」において、成績評価及び GPA について公表し、厳格に運用をしている。

<GPA (Grade Point Average) 評価>

Grade Point は成績評価に基づき次のように対応する。

指標	合格				再試験合格	不合格
評価	S	A	B	C	C	D
素点	100-90	89-80	79-70	69-60	60	59-0
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	1.0	0.0

修得ポイントは〔授業科目単位数×その科目の Grade Point〕とし、GPA は〔修得ポイントの合計÷履修した授業科目の単位数の合計〕で示す（小数点第三位以下切り捨て）。GPA 得点は、試行的に学修指導、履修指導、教育方法の改善に利用する計画である。

②卒業の認定に当たっての基準について
 ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）を策定し、ホームページ上でも公表している。また、全学生に配布している「学修要覧」において、ディプロマ・ポリシーとともに教育課程の概要や卒業要件について公表し、厳格に運用をする。
 薬学部にて6年以上在学し、合計193単位以上を修得した者について、教授会の審議を経て卒業資格の認定を学長が行う。この認定を得た者を卒業とする。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	220 単位	有・無	単位
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	124 単位	有・無	単位
医療看護学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
保健看護学部	看護学科 旧課程	130 単位	有・無	単位
	看護学科 新課程	124 単位	有・無	単位
国際教養学部	国際教養学科	124 単位	有・無	単位
保健医療学部	理学療法学科	132 単位	有・無	単位
	診療放射線学科 旧課程	130 単位	有・無	単位
	診療放射線学科 新課程	133 単位	有・無	単位
医療科学部	臨床検査学科	129 単位	有・無	単位
	臨床工学科	129 単位	有・無	単位
健康データサイエンス学部	健康データサイエンス学科	127 単位	有・無	単位
薬学部	薬学科	193 単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：法人・大学ホームページ及び各学部毎のホームページに情報を掲載するとともに、各学部ホームページから大学案内（パンフレット）をダウンロード・閲覧又は資料請求することにより公表している。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
医学部	医学科	700,000円	2,000,000円	200,000円	今年度1年次の場合 (その他)施設設備費
スポーツ健康 科学部	スポーツ健康科学 科	700,000円	200,000円	550,000円	(その他)施設設備費、教 育充実費
医療看護学部	看護学科	900,000円	300,000円	650,000円	(その他)施設設備費、実 験実習費
保健看護学部	看護学科	900,000円	300,000円	440,000円	1年次の場合 (その他)施設設備費、実 験実習費
国際教養学部	国際教養学科	1,000,000円	300,000円	250,000円	(その他)教育充実費
保健医療学部	理学療法学科	1,000,000円	300,000円	450,000円	1年次の場合 (その他)施設設備費、実 験実習費
	診療放射線学科	1,000,000円	300,000円	450,000円	1年次の場合 (その他)施設設備費、実 験実習費
医療科学部	臨床検査学科	1,000,000円	300,000円	450,000円	1年次の場合 (その他)施設設備費、実 験実習費
	臨床工学科	1,000,000円	300,000円	450,000円	1年次の場合 (その他)施設設備費、実 験実習費
健康データサイ エンス学部	健康データサイ エンス学科	1,000,000円	200,000円	400,000円	(その他)施設設備費、教 育充実費
薬学部	薬学科	1,400,000円	300,000円	600,000円	(その他)施設設備費、実 験実習費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) 1. 学生の能力に応じた補習教育、補充教育 国家試験への取り組みとして、オリエンテーション、特別講義、補講、模擬試験等を実施している。医学部では卒業支援委員会、医療看護学部及び保健医療学部では国家試験対策委員会、保健看護学部では国家試験対策ワーキンググループを組織し、取り組んでいる。例えば、医学部では、卒業支援を担当する教員が学習面・メンタル面のケアを行っている。成績下位学生には、学習の進捗状況を報告させ、個別対応を行う等の重点的なサポートを行っている。国家試験対策の外部講座・外部模試も積極的に活用し、現在の学力を客観的に把握させ、合格へのサポートを行っている。この外部講座・外部模試を実施している業者との調整等は、学生の自主組織である国家試験対策委員が行っており、教職員・学生が一体となって国家試験合格をバックアップす

る体制が整備されている。医療看護学部及び保健看護学部では、教員による個別相談や学生全体へのオリエンテーション、補講、模擬試験等を実施することで国家試験対策を行っている。

スポーツ健康科学部及び国際教養学部では、多くの学生が教員免許を取得し、教員採用試験を受験することから、それぞれのキャンパスの進路指導室に、校長等、学校実務の経験が豊富な元教員（スポーツ健康科学部3名、国際教養学部1名）を客員教授として採用し、教員採用試験に向けた勉強会を開催する等、教員採用試験合格に向けた学生のサポートを実施している。

補充教育の一環として、医学部、医療看護学部及び保健看護学部では e-learning コンテンツを導入している。医学部では、「manaba」を導入しており、講義・学習の予習と復習、学生からの質問の受け付けに活用し、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談対応、その他学習支援に活用されている。「manaba」には、特定の科目において仮進級者を対象としたコースを設けており、担当教員によるフォローアップも行われている。保健看護学部でも「manaba」を導入しており、講義・実習等の受講支援に活用している。

2. 正課外教育

各学部では、SA（スチューデント・アシスタント）等の制度を活用してきめ細かい指導を行っている。例えば、医学部では、留学生等の多様な学生に対する修学支援について、1年次の各科目・分野（英語、数学、物理、化学、生物、留学生支援）で得意な学生が他の学生の学習支援をする SA（10～15名程度）を配置している。また、スポーツ健康科学部では、成績優秀なアシスタント学生（ラーニング・アシスタント）による学修フォローアップのための勉強会を放課後や学生の空きコマに開催している。

国際教養学部では、言語学習センターを設置しており、常駐している教員による外国語学習におけるカウンセリングを受けることができ、正規カリキュラムと自習を有機的に連動させ、学修成果を上げられ、自立性を育む環境を整えている。

医学部では、正課外のカリキュラムとして順天堂国際医学教育塾を開講している。英語総合コースと TOEFL iBT・IELTS 対策コースを設け、TOEFL・IELTS 等の国際基準の英語テストで高得点を獲得するための教育、ハイレベルな英語でのプレゼンテーションや医療面接の指導を行っている。また、国内で医学教育を受け、医師免許を取得した医師が米国で医療行為を行うためには、USMLE（United States Medical Licensing Examination: 米国医師国家試験）を受験し、「ECFMG certificate（米国での臨床研修資格）」を取得する必要があるため、ECFMG certificate の取得を目指す学生に対する教育支援も行っている。2022(令和4)年度からは USMLE 対策コースを増設した。

海外研修に関する支援として、国際教養学部では、主に語学力が一定基準に満たない1年生への補完として、夏季休暇期間に4週間に亘るフィリピン・セブ島での語学研修を実施している。例年多くの学生が参加しているが、2020(令和2)年度から、COVID-19の感染拡大の影響により、現地での研修に代わりオンラインプログラムを実施した。2022(令和4)年度からは、海外への渡航制限が緩和されたことにより、現地研修を再開した。また、新たにカリフォルニア大学アーバイン校との間で特別留学プログラムに関する協定を締結しており、2022(令和4)年9月から学生1名が留学を開始した。この他、同学部では、中国、タイ、シンガポール、オーストラリア等の大学での海外研修制度も設けている。スポーツ健康科学部では、卒業所要単位として認定可能なフィリピン・セブ島での語学研修のほか、正課外としてもイギリス（カンタベリー・クライスト・チャーチ大学）やアメリカ・ニューヨークでのビジネス研修プログラム、タイ（カセサート大学）での模擬授業・実習へ参加できる短期研修を用意している。医療看護学部では、英国（デモントフォート大学）での語学・看護研修やタイ（タマサート大学）、アメリカ（マイアミ大学他）での授業・実習へ参加できる短期研修を用意している。保健看護学部では、北欧フィンランドやスウェーデンの病院、看護師養

成学校、老人介護施設等を見学する短期研修が準備されている。医療科学部臨床検査学科では毎年カンボジアの健康科学大学、プティサストラ大学、民間検査センター、病院などを訪れ1週間の短期研修を実施し、医療科学部臨床工学科では毎年タマサート大学、ニプロ医療研修施設等で1週間の短期研修を実施している。健康データサイエンス学部では、カナダのMRI施設、コンピューターラボ、神経疾患モデルセンター、中国の医療用ロボット研究室、神経工学研究室、アジアトップレベルの清華大学・清華大学附属病院などを見学する短期研修を毎年実施している。

3. 学生からの相談対応

全学部において、学生の質問・相談等に応じるための時間として、オフィスアワーを設定し、学生からの相談に応じる体制を整備している。

4. オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮

オンライン教育を行う場合における学生の通信環境への配慮として、オンデマンド配信による授業では、講義ごとに一定期間、動画視聴期間を設け、授業動画の再視聴機会を確保している。また、自宅等の通信環境が不良の方や、時間割の都合上学内で遠隔授業の受講を希望する学生のためにオンライン授業用の教室を確保している。

5. 障がいのある学生に対する修学支援

障がいのある学生については、『障がいのある学生の支援に関する基本方針』に基づき、個々の事情を勘案し、各委員会で状況を報告して必要な対応を行っている。キャンパス内の必要な箇所に、手すり、エレベーター、障がい者用トイレが設置されている。さくらキャンパスでは、教室内の座席の位置や、配布資料の文字の大きさを工夫する等、視覚障害や肢体不自由な学生に対しては個別に対応できる準備を整えている。受験の申し出があれば、入試委員会で受験資格や対応の確認を行い、入学後は、学生部を中心に支援しており、合理的配慮希望申請に基づきヒアリングを行い、授業、試験、大学生活における合理的配慮を実施することで継続的に支援している。

6. 成績不振の学生、留年者、休学者、退学希望者の状況把握と対応

授業を欠席しがちな学生や、成績不良者には各教科の担当教員や学生部長、学部長が面談等により指導し、留年者を出さないよう取り組んでいる。留年者には、担任又はアドバイザーが重点的なケアを実施している。特にメンタル面でのケアを重視し、必要に応じて各委員会や関係各部署と連携を取り、対応している。また、休・退学希望者については、その理由について本人・保護者・担当教員が面談等を通じて把握し、再修学を基本とした指導・支援を行っている。最終的に休・退学を希望する場合は、願書を提出させて教務委員長、学生部長、学部長が確認のうえ、教授会で審議し、学長が許可している。また、研究科においても講義受講状況や研究進捗状況等を確認する等、研究指導教員及び各キャンパス事務室が連携を取りながら状況把握を行い、指導・支援を行っている。

7. 奨学金その他の経済的支援の整備、情報提供

全学・各学部の奨学金を用意するとともに、日本学生支援機構の奨学金等の外部機関の奨学金を案内することで、修学支援を図っている。

「災害等による修学困難者に対する順天堂大学学納金減免規程」を定め、非常災害等の被災による経済的理由から、修学が著しく困難となった学生に対し、学納金の全額又は一部を免除することにより、学業の継続及び進学のを支援している。

「順天堂大学外国人留学生奨学金給付規程」を定め、私費外国人留学生に対し、その経済的負担を軽減するため、奨学金を給付し、学業の継続及び進学のを支援している。

他の学生の模範となる、成績優秀者（学部学生）を対象とし、学納金を減免することで教育研究の活性化を図っている。

「順天堂大学グローバル・リーダーシップ育成推進奨学金」を定め、国際的に活躍し、学生・教職員の模範となる人材を対象とし、教育・研究・競技の活性化を図っている。同奨学金には、派遣の区分で「短期海外研修補助奨学金（5～15万円）」、「外国留学支援奨学金（15万円）」、「国際大会レベル競技会出場支援奨学金（5～30万円）」、語学の区分で「外国語教育(TOEFL)推進支援奨学金（3万円）」、「日本語教育（日本語能力試験）推進支援奨学金（N1：5万円、N2：3万円）」、資格の区分で国際ライセンス取得支援特別奨学金「（3～100万円）」が設けられている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

1. 各学部では、進路希望に応じたオリエンテーションや研修会等を開催している。**医学部**では、初期臨床研修マッチングに関するオリエンテーションや医学部附属病院の説明会を開催している。**スポーツ健康科学部**及び**国際教養学部**では、各学年で学期始めにキャリアガイダンスを実施し、就職活動に対する意識醸成を図るとともに、年間を通じて、就職対策や業界紹介等の支援行事・セミナーを実施し、就職に対する意識を高めることに努めている。2023(令和5)年度のキャリア支援セミナー開催数はスポーツ健康科学部では延べ130日、国際教養学部では56回を数え、参加者は延べ736名であった。**医療看護学部**及び**保健看護学部**では、医学部附属6病院就職説明会や就活セミナー、就職試験対策講座、マナー研修会等も開催している。**保健医療学部**でも、就活スタートアップ講座、マナー講座、履歴書・エントリーシート対策講座、面接対策講座、筆記試験対策講座等を開催し、学科・学年毎に参加を必須としている。
2. 卒業時に国家試験受験資格を与える学部（医学部、医療看護学部、保健看護学部、保健医療学部、医療科学部）では、教育カリキュラム全体がキャリア教育であるが、キャリア形成に関して考察を深めることができる授業科目をそれぞれ設定している。国家試験への取り組みとして、オリエンテーション、特別講義、補講、模擬試験等を実施している。国家試験対策を企画し学生に指導するための組織として、医学部では「卒業支援委員会」、医療看護学部及び保健医療学部では「国家試験対策委員会」、保健看護学部では「国家試験対策ワーキンググループ」を組織し、取り組んでいる。**医学部**では、卒業支援を担当する教員が学習面・メンタル面のケアを行っている。成績下位学生には、学修の進捗状況を報告させ、個別対応を行う等の重点的なサポートを行っている。国家試験対策の外部講座・外部模試も積極的に活用し、現在の学力を客観的に把握させ、合格へのサポートを行っている。**医療看護学部**及び**保健看護学部**では、教員による個別相談や学生全体へのオリエンテーション、補講、模擬試験、各分野の教員による国家試験に向けた特別授業等を実施することで国家試験対策を行っている。成績に応じて特別グループ学修クラスを編成するなど、学生の対応能力に合わせた指導を行っている。
3. 企業、官公庁等の就職が主となる学部（スポーツ健康科学部、国際教養学部）では、前述の就職支援センター、さくらキャンパス及び本郷・お茶の水キャンパスに設置する就職支援室と連携し、入学後の早い段階から学生に対するキャリア教育を実施している。1年次から年次毎のオリエンテーションや個別面談、就活ノウハウに関するセミナー（キャリア支援講座）を実施し、学生の就職・キャリアに関する活動をサポートしている。**国際教養学部**では、キャリア教育を正課として単位化するとともに、入学時より全学生を対象に「キャリアポートフォリオ」を配布し、授業やキャリア相談における情報を就職活動で活用出来るようにしている。また、企業の人事採用担当者が参加する「業界・仕事研究セミナー」を開催し、学生に自己分析を通して自らのキャリアについて主体的に考えるとともに、企業人との交流によって業界や職種、企業への理解を広く深める機会を提供している。就職支援センター及び就職支援室には、就職支援担当職員やキャリア担当専門教員、キャリアコンサルタントの国

<p>家資格を有するカウンセラーを配置し、学生に専門的なアドバイスを提供するとともに、学生のニーズに見合った個別企業の紹介、斡旋を実施している。企業や就活動向に係る情報を収集し学生に提供するほか、インターンシップガイダンス、公務員試験対策、書類選考・筆記試験・面接対策などに関するセミナー、その他のイベント（OBOG 交流会、企業との合同企画）などを実施している。</p> <p>4. 学生への情報提供及び学内の情報蓄積の質と量を高める手段として、スポーツ健康科学部及び国際教養学部では、2020(令和2)年12月より就職活動支援サイト「順大就職 NAVI」を導入している。学生は、同サイトを通じて、企業検索や求人・インターンシップ情報の収集の他、OB・OGの追跡、大学で開催する各種セミナー・ガイダンスの参加申し込み、就職支援に係る電子書籍の閲覧、キャリア相談予約等が可能となっている。大学側も学生の活動状況のフォローや各種統計資料作成の効率化が図れるようになっている。また、Zoom等のオンラインツールを活用し、双方向の就職支援講座、動画配信、模擬試験の自宅受験、面談など、学生のニーズに合わせて対面とオンラインを併用しながら支援を実施している。学生にとっても、移動時間の節約、オンラインでの面接試験の練習に繋がる等の利点が認められる。</p> <p>5. スポーツ健康科学部及び国際教養学部には教職課程が設置されており、全学組織として「教職課程センター」を設け、教員養成を推進している。スポーツ健康科学部では、多くの学生が教員免許を取得し、教員採用試験を受験することから、就職課内に教員を目指す学生への支援を目的とした「進路指導室」を設置し、校長等を務めたなど学校実務の経験が豊富な元教員3名を客員教授として採用し、教員採用試験に向けた正課外の勉強会の開催、学習指導、個別相談の実施等、教員採用試験合格に向けた学生のサポートを実施している。国際教養学部では、「教職課程委員会」を設け、専門教員による授業、試験対策を行っている。また、「教職課程指導室」に公立学校長経験者を配置し、進路相談・試験対策等を行っている。</p> <p>6. 国際教養学部では、外国人留学生に関しても、留学生向け就活セミナー、留学生向けインターンシップ等を企画し、支援している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>1. 本学では、『学生の支援に関する方針』において、「ハラスメント防止に向けての啓発活動を継続的に推進するとともに、学生相談室やハラスメント相談窓口等を設置して快適で安全な学生生活を送ることができるよう支援する」ことを示している。同方針を踏まえ、ハラスメントの問題に関する基本的事項を定めた『学校法人順天堂におけるハラスメントの防止等に関する規程』を制定するとともに、キャンパス毎に『人権委員会規程』を制定し、ハラスメントの被害者からの相談・苦情の受付、対応の指導・助言、被害者への支援・救済等を所掌する「人権委員会」を設置するなど、ハラスメントを防止及び排除する体制を整備している。</p> <p>2. ハラスメント防止のための措置及び問題が生じた場合の対応・措置については、ホームページに「ハラスメント対策」を掲載し、ハラスメントの定義、被害者・加害者を出さないための啓発、ヘルプラインの部署などの情報を掲載している。学生に関しては、各学部学生相談係が窓口となっている。また、学生相談室では、臨床心理士・公認心理師（学内カウンセラー）による「こころの相談」等について、オンライン（電話あるいはZoomでの相談）で実施できる体制を整えている。この他、医学部では、『学生生活案内』に「ハラスメント防止について」や「SNSにおける注意事項について」等の諸注意を掲載している。スポーツ健康科学部では、新学期ガイダンスの際、「学生相談室のしおり」のリーフレットを配布し、相談窓口を周知しているほか、「ハラスメント防止」をテーマとするFD研修会を実施している。人事部では、全教職員を対象とするオンデマンド研修（「ハラスメント防止研修」）を2020(令和2)年度より継続して実施している。</p>

3. 学生の安全衛生管理については、『学校法人順天堂安全衛生管理規程』に基づき、「健康安全推進センター本部」及び各部門に「健康安全推進センター」を設置し、産業医、学校医、衛生管理者、保健師、看護師等を配置して学生の健康管理を行っている。特に心のケアを行う「学生相談室」には、精神科医（学生相談室長）やカウンセラー（臨床心理士・公認心理師）を配置し、学生が相談できる体制を整備している。さくらキャンパスでは、スポーツ活動を行う学生へのメディカルサポートやスポーツ医学分野の教育・研究・診療活動を発展させることを目的に、2023(令和5)年度に「さくらキャンパス診療所」を開設し、学生の病気やけがに迅速に対応している。健康診断は、春季に全員を対象に実施し、秋季は健康安全推進センターより指示された者を対象に実施している。また、無料でインフルエンザ予防接種を実施しており、各実習に備え麻しん・風しん・水痘・ムンプスの予防接種を受けるよう指導している。
4. LGBTQに対する支援については、出身校・国籍・性別による差別をしない「三無主義」の学風のもと、SOGI (sexual orientation and gender identity: 性的指向・性自認) や性表現に関わらず、差別を禁止し、学生が安心して学べる環境づくりに努めている。学内では、LGBTQ+当事者を含むアライ (Ally: 当事者、非当事者問わず LGBTQ+など性的少数者への支援者や理解者であることを示す) の職員が中心となり、自発的に参加できる「SOGI をめぐる配慮と対応ワーキンググループ」を設置し、学生や教職員、病院の患者・家族の声や提案を反映する取り組みを行っている。LGBTQ+当事者の方をゲストに招き、多様な性への理解を深める研修会を全学部・附属病院の希望者を対象に学内で実施している。2023(令和5)年度は、さらに保健医療学部、浦安・日の出キャンパスで全教職員を対象にFD/SDをオンラインで実施した。静岡病院及び越谷病院では対面にて講演会を開催した。順天堂医院では、多目的トイレを「誰でもトイレ」としてLGBTQに配慮した対応を行っている他、LGBTQsをはじめ多様な性的指向・性自認 (SOGI) を有する方たちの受診・入院に伴う「SOGI 相談窓口」を設置し、受診・入院にあたり、SOGI に関連してご心配やご質問がある方の相談を受け、支援を行っている。2022(令和4)年度に、本学のLGBTQ+への取り組みが対外的に評価され、任意団体「work with Pride」による「PRIDE 指標 2022」の最高評価「ゴールド」認定を取得した。その後も毎年 GOLD 認定を取得している。
5. 学生教育研究災害傷害保険、学生総合補償制度等に全学生が加入することで、教育、研究中の不慮の事故に備えている。また、不慮の事故に遭遇した場合の対処方法について、学生便覧に記載し、新学期オリエンテーションで確認している。夜間・休日であっても、守衛を介して関係部署に連絡がとれる体制を整備している。
6. 各学部の学生部委員会では、合同学生部委員会による全学部生を対象とした『学生生活実態調査 (アンケート)』の結果に基づき、学生支援の在り方等を検証し、改善・向上を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/information/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F113310103055
学校名 (〇〇大学 等)	順天堂大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人順天堂

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		479人（－）人	444人（－）人	503人（－）人
内 訳	第Ⅰ区分	244人	234人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅱ区分	120人	103人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 一人）	
	第Ⅲ区分	91人	74人	
	（うち多子世帯）	（ 0人）	（ 0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	一人	一人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	23人	21人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（－）人
合計（年間）				506人（－）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	一人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	一人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	一人	人	人
計	15人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
GPA等が下位4分の1	16人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
		年間	前半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	67人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	67人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。